

# 海外行政視察報告書

## ■訪問都市

台湾：桃園市、高雄市、基隆市、台北市

## ■期 間

平成 30 年 7 月 5 日～11 日

高松市議会

## 団長挨拶



現在、本市を取り巻く社会・経済情勢は、超少子高齢化の急速な進展とともに、今後人口減少などが想定されています。このような状況の中で、「持続可能なまちづくり」を進めていかなければなりません。

これまでの議員活動で培った見識をさらに向上させるため、海外都市の先進事例を積極的に学ぶとともに、グローバル化する世界を体感しなければなりません。そこで、7月5日から7月11日までの7日間、台湾へ議員団6名で訪問し視察を行いました。

今回の海外視察では、出発するまでに5回の検討会議、研修を行いました。第1回・第2回の検討会議では、行政視察都市の選定を行いました。様々な意見がありましたが、台湾の基隆市・桃園市・高雄市を中心に、台湾観光協会・中華民国対外貿易発展協会・外交部台湾日本関係協会・三三会等を選定しました。選定理由については、基隆市と本市は昨年5月に交流協定を締結し、今年6月には公式訪問団が来高し、その際、基隆市形象圏促進会の許顯揚理事長から招待を受けたこと。次に、台湾との友好交流を実施する全国地方議員の全国日台友好議員協議会と台湾高雄市議会の康裕成議長から、第4回日台国際交流サミット in 高雄の参加要請を受けたこと。桃園市については、香川県が交流協定を結んでいることやアジア・シリコンバレー計画を視察することを目的に選定されました。

第3回・第4回の会議では、香川県観光協会、香川日華親善協会、台北駐大阪経済文化弁事処の協力を得て、我々団員で日程を調整し、スケジュールを作成しました。

第5回の研修会では、本市職員の中の台湾留学経験者を講師として、台湾の文化・歴史、さらに簡単な台湾語の勉強をしました。

具体的な視察内容や所感については、各団員より報告しますが、今回の研修は、各都市、各団体が行っている取り組みを実際に見聞することで、学んだことがさらなる本市の発展の一助になることを確信しております。

結びに、今回の海外行政視察研修に関して、研修やスケジュール調整等を含め、多大なる御協力をいただきました関係者の皆様方に対し、心より御礼と感謝を申し上げて、御挨拶とさせていただきます。

岡下勝彦

## 派遣団員名簿

団長	岡下 勝彦	団員	神内 茂樹
団員	森川 輝男	団員	藤原 正雄
団員	森谷 忠造	団員	白石 義人



## 海外行政視察 行程表

月日	時間	都市名	視察先等
7／5 (木)	19：05 20：45	高松 桃園	高松空港発 桃園空港着
7／6 (金)	午後	桃園	桃園市政府計画専門事務所 「アジアシリコンバレー計画について」
7／7 (土)	午前 午後	桃園 高雄	高雄市へ移動  全国日台国際交流サミット参加 テーマ討論「高齢社会のマーケティング」 テーマ討論「新農業のマーケティング」 交流会
7／8 (日)	午前 午後	高雄 基隆	高雄市立図書館視察 高雄LRT視察  基隆市へ移動
7／9 (月)	午前 午後	基隆 基隆 台北	基隆市長表敬訪問 基隆支社表敬 西岸コンテナーセンター・光華塔視察 基隆港視察  基隆市姉妹都市推進会歓迎昼食会 国立海洋科技博物館視察  台北市へ移動
7／10 (火)	午前 午後	台北 台北	總統府・台北賓館視察 三三企業交流会訪問及び昼食会  台湾観光協会訪問・意見交換 中華民国对外貿易発展協会訪問・意見交換
7／11 (水)	午前 14：30 18：05	台北 桃園 高松	桃園空港へ移動  桃園空港発 高松空港着

# 各視察先報告

平成30年7月6日（金）13時30分～16時

「アジア・シリコンバレー計画」について

場 所 桃園市政府計画専門事務所

説明者 桃園市 郭 裕信 主査（プロジェクトオフィス ディレクター）

黃 明仁 専案経理（プロジェクト マネージャー）

辦公室副總監 林 維林（リン イーワン）

通 訳 桃園市 秘書 吉田 絵里

目的・内容・結果

「アジア・シリコンバレー計画」について説明を受ける



桃園市政府計画専門事務所の入居するオフィスビル「金融館」

まず、桃園市 郭主査（プロジェクトオフィス ディレクター）よりご挨拶をいただき、続いて、当方の岡下団長からご挨拶申し上げ、早速説明を頂いた。

冒頭に桃園市制作のPRビデオにより計画全体の概要説明を頂き、引き続き担当者の黃 専案經理（プロジェクト マネージャー）より説明を受ける。桃園市側の通訳は、桃園市で秘書をされている吉田絵里さんが務めてくださいました。

「桃園市アジア・シリコンバレー計画」は、2016年9月に蔡 英文 氏が総統就任後に打ち出された新しい経済政策である。新しい経済政策の計画名は「5 + 2 計画」と呼ばれており、元々の計画は5つだったが後から2つの項目が追加され、5 + 2 計画と呼ばれるようになった。

### 「五加二」主要内容如下：

項目	→ 内容 ←
1.物聯網 (也稱為亞洲·矽谷計畫)	發展：1.健全創新創業生態系 2.連結國際研發能量 3.建構物聯網價值鏈 4.智慧化示範場域
2.生物醫學	打造台灣成為亞太生物醫學研發產業重鎮
3.綠能科技	以綠色需求為基礎，引進國內外大型投資帶動我國綠能科技產業發展，減少對石化能源的依賴及溫室氣體排放。
4.智慧機械	以智慧技術發展智慧製造，提供創新的產品與服務，推動臺灣產業轉型升級。
5.國防產業	以衛星技術為基礎，推動相關產業發展
6.新農業	以「創新、就業、分離及永續」為原則，建立農業新典範，並建構農業安全體系及提升農業競爭力。
7.循環經濟	透過重新設計產業鏈與營收模式，降低資源的消耗使用成本，創造循環經濟和永續未來的新經濟。

1

当初の5つの項目のうち、一つ目にあるのがモノのインターネットIOT産業で、IOT産業の中にアジア・シリコンバレー計画が入っている。

元々台湾はICT産業が強みだったので、その産業を強化しIOTに転換していくことを総統府の政策として立上げられたため、そのIOTの強化を図りつつ、桃園の産業あるいは台湾の産業の国際化、あるいはスマート化を図っていくことがアジア・シリコンバレー計画の重要な目標の一つである。

「5 + 2 計画」の 5 項目は

- 1 IOT産業（含アジア・シリコンバレー計画）
- 2 バイオ医療技術
- 3 クリーンエネルギー
- 4 スマートマシナリー
- 5 国防産業関係

これが元々入っていた 5 つの項目である。

これに + 2 の項目として

- 1 新しい農業
- 2 循環型経済

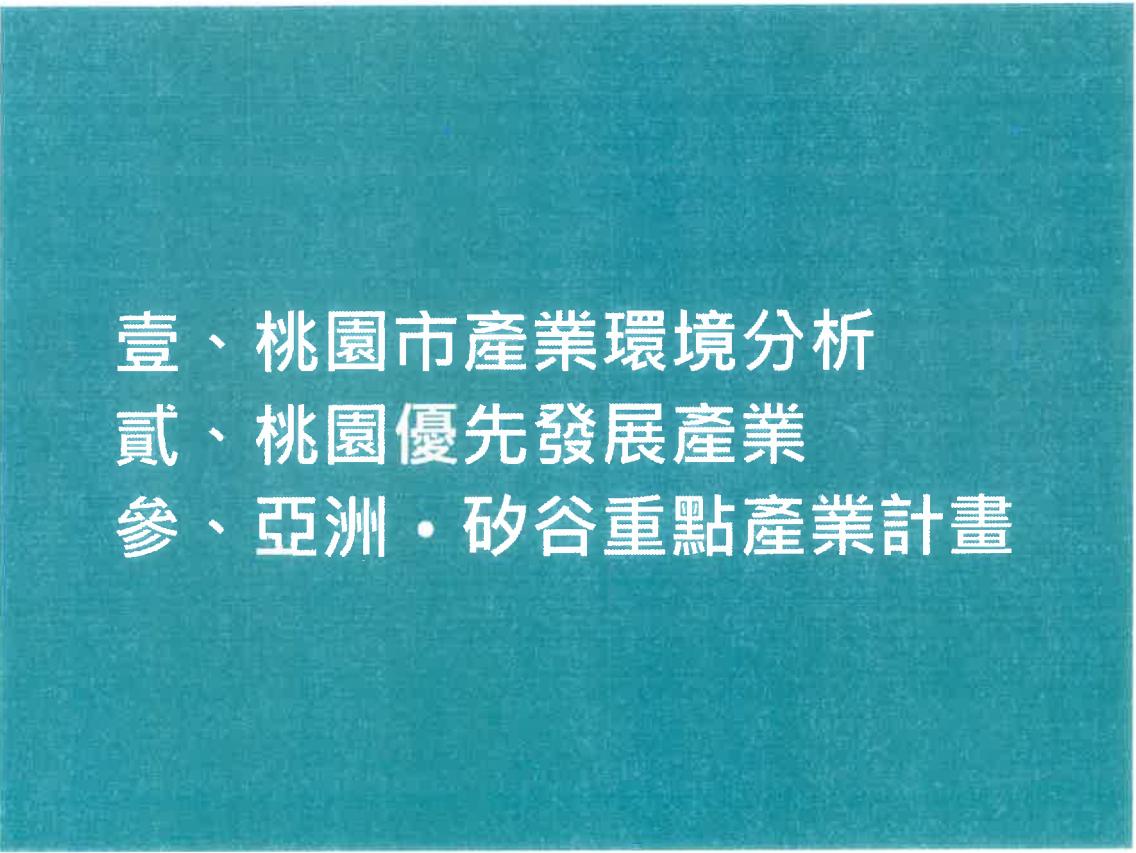
が加わり、現在の「5 + 2 計画」となっている。

このうち、桃園市で行なっているのは 1 の IOT 産業に含まれるアジア・シリコンバレー計画である。

## 桃園市亞洲・矽谷計畫基地-區域圖



現在、我々が居る桃園市政府計画専門事務所は、高鉄（台灣新幹線）桃園駅のすぐそば、そして右から二番の星印が桃園市政府、上の星印が桃園国際空港の位置。アジア・シリコンバレー計画での重要なポイントは、左の星印のメトロ線A19駅である。ここからだと車で5分ほどの距離。そして、一番右下にある赤い星印の部分、これが二つ目のアジア・シリコンバレーの基地に当たり、虎の頭の山と書く「虎頭山（ことうさん）」という公園があるが、その虎頭山に計画エリアがある、桃園市政府から車で10分ぐらいの距離。これら二つともIOT、イノベーション、起業などの強みを持っているところである。

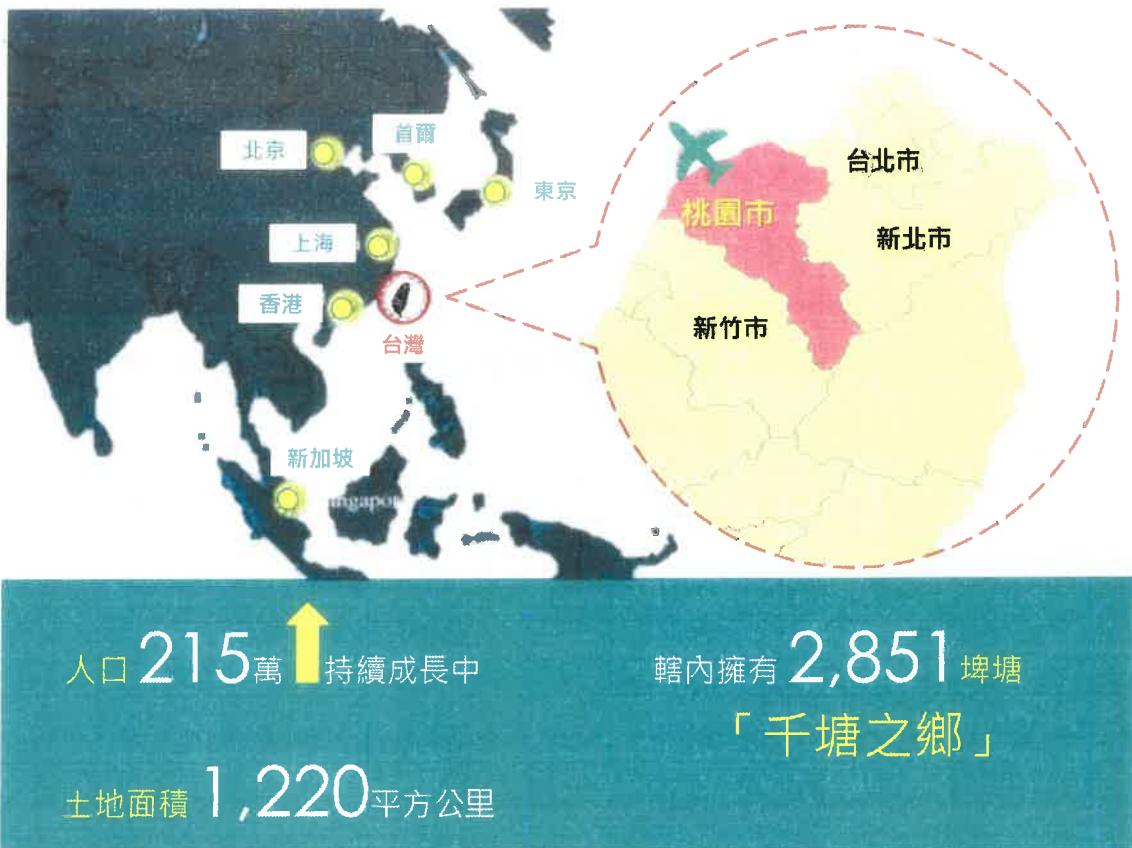


# 壹、桃園市產業環境分析

# 貳、桃園優先發展產業

# 參、亞洲・矽谷重點產業計畫

ここからは桃園市の産業の環境について、その分析の説明と、二つめに、桃園が優先して発展させようと指定産業についての説明。最後に桃園が力を入れているアジア・シリコンバレー計画の重点産業について説明。その部分が先ほどのA19エリアになる。



台湾は東アジアの中で地理的に非常に優位な位置を占めており、基本的にそれぞれの国の首都、東京やソウル、北京、上海、あるいはシンガポールなどに飛行機で平均3時間ぐらいの移動時間という位置を占めている。

現在、桃園の人口は、台湾の県、市の中で唯一増加しており、2018年6月の時点ではすでに219万人に達している。土地面積は1,220平方キロメートルである。

また、桃園ではもともと農業が非常に盛んだったので、至る所に灌漑のためのため池を作っている、その地形をランドアートとまではいかないものの、地形の特色を活かした街づくりがなされている。また、今でも残されているため池が2,851箇所あり、そういうところから「千のため池の里」という名称で呼ばれている。

- 32 個工業區，1 萬家工廠，供應鏈完整
- 距離首都台北及新竹科學園區都是 30 分鐘內的車程
- 擁有桃園國際機場
- 鄰近台北港
- 海空聯營的「雙港效應」



## 四大優勢

## 交通與產業

6

台湾の北側の地図、桃園市の付近の地図になるが、すでに工業エリアと呼ばれるところは30箇所だったものが32箇所ある。また工場自体も1万件ほどある。

桃園から最も近いところで有名なところが、台北市あるいは隣の新竹にある科学エリアだが、そこには車で30分から45分ぐらいで行ける距離に位置している。それ以外に、国際空港はもちろんのこと隣接した台北港も持っているので、アジアの中心にあるという地位的なところから、空運だけではなく海運についても役立つことができる。これを空の港、海の港の両方を有しているということから「双港効果」2つの港の効果と呼んでいる。

## 全國第1

104年人口成長率	低碳生活執行績效
工商綜合區數量	觀光工廠及產業文化館總數
全國首創青年事務局	工業產值逾1,000億美金

## 全國唯一

亞洲·矽谷計畫 · 匯聚人才、技術、資金，打造物聯網應用智慧場域	
最大國際機場 · 預計2030年客運量達6500萬人次、貨運量達450萬噸	
桃園航空城計畫	兩岸對接專屬第三航廈
航空自由貿易港區	雙港聯運 · 深層加值
三鐵共構、三橫三縱快速道路系統 · 北台一日生活圈	

## 國內重要指標

ここに示しているものは全て全国ナンバー1のものである。

ここ数年、人口の成長率は全国で一番、それ以外に、工業あるいは商業の総合エリアの数も一番である。

桃園市政府は台湾の中で一番最初に青年事務局立ち上げた。これは青年が関わるものであれば起業であるとか大学などの就学に関しても請け負っている。また、観光工場として工場内の見学を解放している工場の設置数、また、産業の文化などを紹介する文化館、展示館などの設置数も全国で一番である。また、工業生産高は1,000億米ドルを超えており、14年間台湾のトップを占めている。

人々こうした実績があった関係もあり、国がアジア・シリコンバレー計画をどこで行うかを議論した結果、桃園市が選ばれた経緯がある。

桃園としてはこの機会を活かし、桃園でのアジア・シリコンバレー計画の目的として人材・技術・資金などを桃園を持ってきて、それを基にIOT産業あるいはスマートシティーを推進していくことを目的としている。

桃園国際空港では、2030年までに旅客量を延べ6,500万人、貨物量を450万トンに拡大できるように目論んでいる。それ以外に、我々が今いるセイホ（地図）に航空城計画の実行室がある。また、海側には航空自由貿易区というエリアを

設けている。現在、桃園國際空港には2つのターミナルがあるが、第3ターミナルの建設を行なっている。基本的には台湾と中国本土を結ぶ線を利用する予定。それ以外に、高速道路では南北に走るもののが3路線あるが、東西に走るもの、これは台風の土砂崩れなどで道路がよく被害を受けるので、できるだけ早く高速道路を開通し、陸路での物流量を増やしていくと考えている。高速道路や鉄道を整備し、移動が容易になることで台北、あるいは台湾北部を1日で移動できるような生活圏にしようと考えている。例えば、桃園から台北に新幹線で移動するなら現在はだいたい20分、新竹であれば新幹線で10分ぐらいだ。

続いて、桃園の産業の売上高などの紹介。

## 桃園市產業營業收入

- 2015年統計・桃園市產業全年營業收入達約2兆8,701億元
- 2015年電子零組件製造業桃園全年營業收入約6,903億元
- 2015年電腦、電子產品及光學製品製造業桃園市全年營業收入約為3,133億元
- 2015年汽車及其零件製造業桃園市全年營業收入約為2,396億元

序	類別	桃園市全年營業收入	全國全年營業收入	桃園市/全國
1	電子零組件製造業	6,903億元	4兆165億元	17.19%
2	電腦、電子產品及光學製品 製造業	313.3億元	1兆1,634億元	26.93%
3	汽車及其零件製造業	2,396億元	6,051億元	39.60%
4	電力設備製造業	1,663億元	5,228億元	31.81%
5	金屬製品製造業	1,652億元	1兆2,888億元	12.82%
6	機械設備製造業	1,591億元	9,674億元	16.44%
7	基本金屬製造業	1,438億元	1兆442億元	13.77%
8	化學材料製造業	1,339億元	1兆7,663億元	7.58%
9	紡織業	1,298億元	4,173億元	31.10%
10	石油及煤製品製造業	1,280億元	9,572億元	13.37%

資料來源：104年經濟部統計處工廠校正及營運調查

最新のデータは2017年データだが、現在、公開されているものでは2015年のデータが最新のため、2015年データを基に説明。

桃園の年間営業収入は2兆8,701億台湾ドル。桃園で一番売り上げのある産業は電子部品の製造業6,903億台湾ドル。第2位がコンピューター・光学製品など

の製造業。第3位が自動車および関連部品の製造業。また、桃園で第1位である電子部品の製造業は台湾全体の中でも第1位であり、コンピューター・光学機器及び自動車・関連部品製造業においても、台湾の中でも三本の指に入る売上高を誇っている。これらがアジア・シリコンバレー計画の地を桃園とした理由の一つである。



台湾での有名企業は500社ほどあるが、そのうち200社は台湾に工場、もしくは総本部をおいており、台湾の40%の有名企業が桃園を選んでいる。産業の分類としては、電子・インフォメーション関係あるいはエネルギー方面の科学技術また、運輸関係の科学技術・化学材料あるいはバイオテクノロジーまた、生活に関する事業が主な6つ。

# 優先發展產業

## 全球重要產業趨勢

- 智慧化
- 綠色化
- 文創化

## 中央上位政策

- 「五加二」產業
  - ・ 亞洲矽谷計畫
  - ・ 智慧機械
  - ・ 生技醫藥
  - ・ 綠能
  - ・ 國防產業
  - ・ 循環經濟
  - ・ 新農業

## 桃園基礎優勢產業

- 汽車及其零件
- 電腦、電子、光學及其零組件
- 產業用機械設備維修及安裝
- 運輸及倉儲
- 機能紡織
- 產業環保

## 亞洲矽谷

- 創新研發中心
- 桃園會展中心
- 虎頭山物聯網創新基地
- 幼獅國際青年創業村
- 桃園航空城

## 桃園優先發展產業

- IoT物聯網(智慧醫療)
- 高端智慧物流倉儲
- 智慧綠能科技(風力發電、光電埤塘、燃料電池等)
- 國際會展
- 電動汽車(自駕車)產業

桃園で優先的に発展させていくと考えている産業について、主に3つのものに力を入れている。一つはスマート化、もう一つはグリーン化、文化創造力を高めることである。また、桃園で優勢である産業の基礎となっているのは、先にも触れた自動車産業とその部品あるいはコンピューター、エレクトロニクス、光学関係の製造業、産業用機械のメンテナンスなどである。また、運輸と倉庫業なども行なっており、物流に力をいしているのでハード面の拡大をしていく方向にある。また、それ以外に機能性の高い紡績業なども強みの一つで、例えば今行われているサッカーワールドカップの選手が着用しているユニフォームだが、これは通気性や汗の吸収がよい機能性の高い服なのだが、これは台湾で生産されている。

例えば、外国を例に挙げると、グリーン化を紡績業でも進めており、ポリエチレンから衣類を作る、ペットボトルなどを集めてリサイクルし纖維、布を作り出している。また、それ以外に環境保護産業などにも力を入れている。

## 一、創新研發中心一區位優勢



14

桃園に設置されているアジア・シリコンバレーの主な基地というものが、右上にある、一つはイノベーション開発センターというところで、ここから車で5分の距離にある。開発センターの隣に計画されているのが、大きなコンベンションセンターの施設、その付近には会議などを開きやすいように5つ星ホテルの誘致を行っている。

先ほど地図で示した一番右側の星印に虎頭山IOTイノベーション基地があるが、これはまだ計画中で実行されていないところであり、今日、このオフィスに人気が少ないので、虎頭山IOTイノベーションセンターでの会議に大半の職員が出席しているため。

## 一、創新研發中心—基地資料及發展定位機能

基地 資料	<ul style="list-style-type: none"><li>•桃園高鐵特定區，緊鄰機場捷運A19站旁</li><li>•面積約3.81公頃</li></ul>
發展 定位	<ul style="list-style-type: none"><li>•建構「創新研發中心+智慧城市試驗場域」</li><li>•將通訊技術業者、國際Tier 1大廠研發或資料科學團隊、2nd round新創團隊的創新研發能量實際聚集於本基地；導入國家智慧城市或數位建設計畫，整合國家頻譜資源，同步建置周邊資通訊場域。</li></ul>
引入 機能	<ul style="list-style-type: none"><li>•產業轉型驅動加速器中心：跨域研發合作、跨業創新整合...等</li><li>•連結在地產業優勢，成為國際鏈結據點：物聯網、智慧車輛、創新科技...等</li><li>•呼應全球議題之國際鏈結據點：智慧醫療創新配套科技、生態科技農業...等</li></ul>

23

我々の計画の中で、どの分野にスマート化を取り入れていくかについて、基本的にはIOT、物流関係の産業、またそれ以外に物流関係であるが、倉庫業・倉庫管理関係、また、グリーンエネルギーの分野では風力発電、また、ため池が多くあるので、その水面を活用してのフロート型太陽光発電によるため池発電、あるいは燃料電池の開発をスマート化させていこうと考えている。それ以外に、国際コンベンションセンターの設置、また、電動自転車産業に力を入れていこうと考えている。

## 桃園市推動亞洲・矽谷計畫之四大功能定位

潛力企業的高成長發展基地

亞洲青年創新  
IPO中心

亞洲區域創新交流樞紐

智慧應用研發中心與試驗場域

13

桃園市政府で進めているアジア・シリコンバレー計画では4つの効能を目標としている。一つは潜在能力のある企業を高く発展させていくための集積地あるいは基地を建設すること。また、二つ目としてアジアの青年が創業・起業できるようIPOセンターを作ること。三つ目にアジア地区におけるイノベーションの交流ができるところ、あるいは交流の中心地となること、そして四つ目としてスマート化の応用の研究開発を行うためのセンター、あるいはその試験場、試験場とはただの工場のようなものではなく、街全体を試験場とするような区域を特定していく。

このアジア・シリコンバレー計画の計画名ですが、なぜアジア 点 シリコンバレーと正式には点を入れるかと言うと、我々はシリコンバレーを真似てアジアにシリコンバレーを作るのではなく、アジアでシリコンバレーと同等のものをを作る、あるいはアジアのシリコンバレーとなるという想いから、この点は譲れないところである。今の所、この点が功を奏している訳ではないが、実際に成果も上がっており、色々な外国の企業や訪問団の方々が桃園におけるアジ

ア・シリコンバレーの視察や見学に来る。シリコンバレーという名称はついているが、我々が目指すのはアメリカの人々に注目してもらうだけではなく、色々な国からIOT産業や物流について興味のある色々な人とこの分野で交流を行いたいと考えている。

例えば、先月8日には日本の日立グループの方々がこちらを訪れて、今後もぜひ交流を続けていきたいというような会議を開いた。

## 一、創新研發中心—區位優勢



14

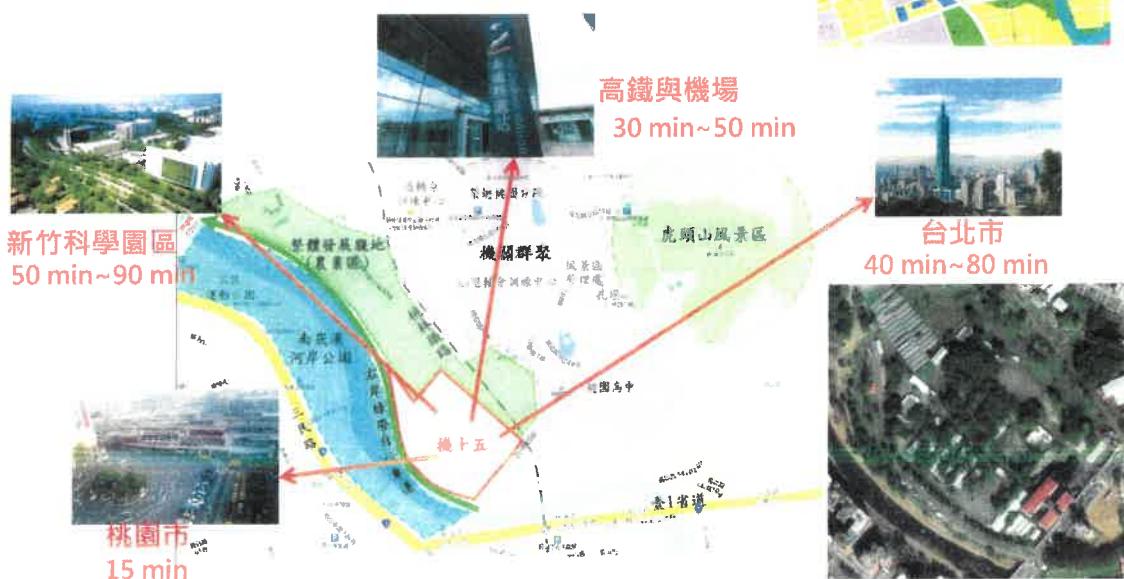
空から見た鳥瞰図。一番中心にある広い部分が若い人材を育てるためのイノベーション人材交流センターで、今、我々が居るのが右側スライドの外側になる右端の部分。右端の二つの紫色の部分が新幹線の桃園駅。写真のこの部分が青埔（セイホ）の発達特区というところ。また、黄色い部分はコンベンションセンターで、これはただの計画ではなく、確実に実行に移されるもので現在話し合いを進めている。後ろ側にある箇所には五つ星ホテルを誘致している。右端の部分が新幹線の桃園駅、そこから一本繋がっているのが桃園メトロの路線である。このメトロは、このまま北に走ると台北駅に繋がっている。三角形の

部分に国際学校と示されているが、これはこの区域の開発が終わった後、コンベンションセンターやイノベーション人材交流センターもあるので、色々な国から様々な人が来ることを想定して、例えば、家族連れできた場合、色々な国の子供が就学できるように国際学校の建設を予定している。また、国際学校の隣にある黄緑色の部分は、桃園市初の美術館で、市立て建てられる一番大きな美術館を建設予定である。また、先ほどの郭主任の挨拶にもあった、西武グループの八景島が建設予定の水族館も青埔開発区域の中にある。また、こちらが我々の開発区域の中で一番重要視している青埔開発区域だが、この中にも規模は小さいが試験場があり。その位置は、二つの野球場の付近にスマート化した電灯、あるいはスマート化で計測することができる計測機、例えばPM2.5という悪い空気がこのあたりはよく飛んで來るので、その計測のための計測機を建てたり、あるいはこの区域に関して無人自動車、完全に自動化された車をこの区域で走らせようと計画もしている。

## 二、虎頭山物聯網創基地-區位條件

### ➤ 交通方便、生活機能佳

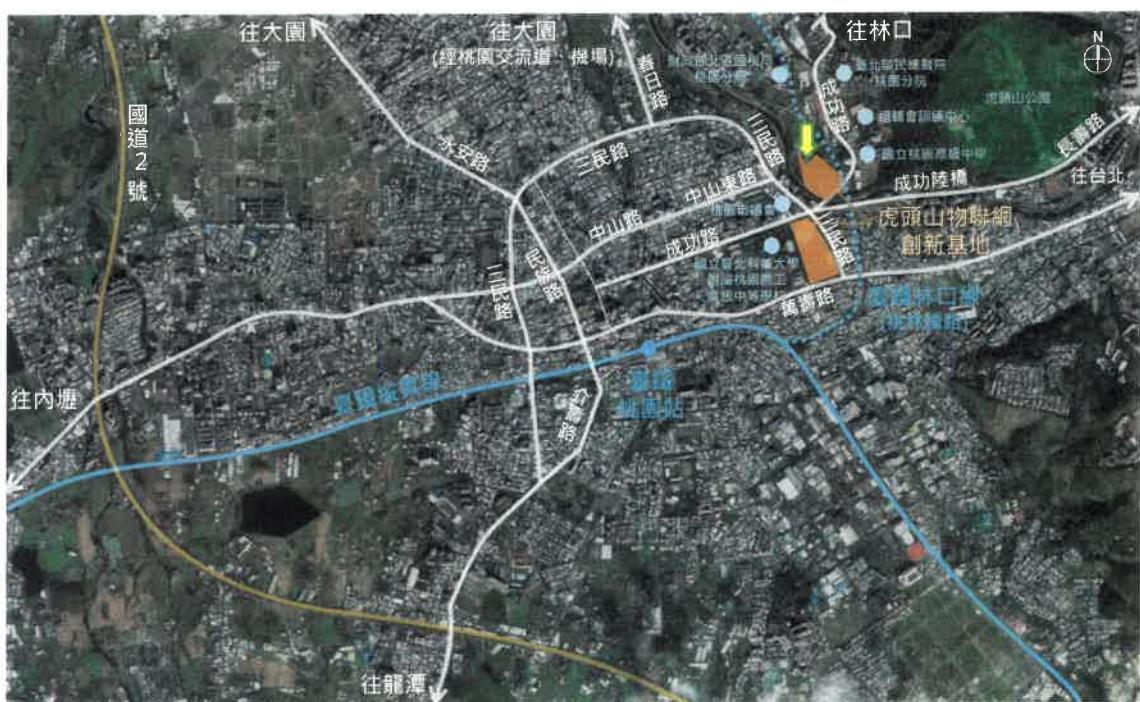
- 現在新創以內需為主故聚落在台北
- 未來新創應以開發國際市場為主可能轉移桃園



今までの部分が青埔の説明だったが、これから説明するのが虎頭山の内容。こちらは市政府から車で10分ぐらいのところに位置しており、新幹線駅、もしくは空港まで30~50分程度、台北市には40~80分程度、新竹の化学エリアまでは50~90分程度で移動可能である。

地理関係から言うと、今の部分が市政府になり、こちらが虎頭山のエリア。

## 虎頭山物聯網創新基地-基地



虎頭山のIOTのイノベーション基地は今矢印がついているところだが、その隣に緑色の円で囲まれているところが虎頭山公園、一つの丘を山岳用の道も含めて作っている公園だが、その公園の隣に位置しており面積は約4.7haほど。この土地は元々国有地であり海軍の土地だった。

## 虎頭山物聯網創新基地-第一期用地



この地区の開発については2段階に分かれており、第一期は黄色の囲みの部分で約1.3haの土地を桃園市に譲渡してもらった。第二期は3年後に予定されており、赤い囲み部分全てを桃園に譲渡してもらう予定である。すでに譲渡されている第1期のエリアにおいて、現在無人自動車の運行実験が行われており、また、IOTに関する研究、スマート化を治安に応用するための研究も行われている。また、空間としては少ないが、イノベーション関係で何か立ち上げたいと考える会社が入るためのスペースも確保している。現在譲渡を受けている黄色の囲み部分について、全体が元々海軍基地だったので、敷地の周囲は高い防壁で囲まれており、さらにその上に鉄条網が巻かれている状態であるが、ここは無人自動車の実験場となっていることから、すでに譲渡されている敷地の下側、コの字の部分、さらに下側には川があり、休日になると川沿いを散歩する市民もあることから見た目が悪いとの声が、また、無人自動車の路線も川っぺりに計画をしているので、譲渡を受けた部分については防壁の除去や鉄柵の除去などの景観の改善を計画している。

## 二、虎頭山物聯網創新基地—發展定位及機能

基地資料	<ul style="list-style-type: none"><li>桃園都市計畫區機關用地，緊鄰南崁水岸自行車道</li><li>面積約4.7公頃</li></ul>
發展定位	<ul style="list-style-type: none"><li>推動產業創新升級，鏈結產、官、學、研各界單位合作，進行IOT人才培育、提供物聯網示範場域，導入國際IOT新創企業，營造適合創新之生態體系。</li><li>「自動駕駛電動車輛」試驗場域。</li><li>IoT&amp;資安驗證試驗廠場域</li><li>新創基地</li></ul>
引入機能	<ul style="list-style-type: none"><li>經營主題館，邀請各領域智慧應用與相關技術業者進駐展示。</li><li>規劃研習教育活動，邀請相關領域專家，舉辦定期課程、演講或研討會。</li><li>協助各領域應用技術交流，支援國內(外)業者間之媒合活動。</li><li>規劃新創團隊工作室與展示空間，邀請國內外新創團隊進駐。</li></ul>

19

行政の方面に関して7月・8月がヤマ場であり、ここで計画を通し9月ごろに計画の実行案が決定すると、予定では来年の5月の頭には、実際に利用ができるよう計画されている。来年の5月以降に訪れれば、会議室ではなく、実際の現場の視察ができるようになっている。

以上で桃園市のアジア・シリコンバレー計画の説明を終了。

## 引き続き国の事業説明

説明者は辦公室副總監 林 維林（リン イーワン）氏より説明を受けた。林氏はアジア・シリコンバレー計画の桃園市オフィスに設置された国の出先機関の職員。



国の方で出てきている成果として、IOT 関係の企業の起業数がハッキリと増加していること、また、IOT 産業に関する連盟も立ち上げた。また、国際企業の資源を着々と台湾に引き入れることに成功している。それ以外にもそれぞれの地方自治体と連携して、それぞれの地方自治体に合った応用も目に見える形で成果が表れている。また、我々がこの計画を通して得た成果などを積極的に国際会議などでその経験を共有することも行なっている。また、アジア・シリコンバレー学院の設立もした。

IOT関係の企業について、去年1年間で1,406社が新しく設立された。また、モノのインターネット産業の連盟について、そこで行なっている内容は、産業の標準化、つまりどのようなレベルのものを作るべきなのかの標準を示すことを行なっている、またそれ以外に、実際にここに入っている企業の方から政府に対し、政策についての提言があればそれを政府に伝えることができるようなシステムを設けている。また、それ以外に、新しい企業が是非国際会議に行ってPRしたい」といった場合、政府が関連企業のグループを引き連れて参加できるようなシステムも作っている。また、政府の方で統括した後、この企業は一般企業としてできる、またこういった計画を模範計画としてできるといったものがあった場合に、それを他の企業にも公開できるような場所も設けている。この連盟の中には340ほどのグループが参加している。

国際企業の誘致について、フランスのユニコーン社のシグフォックスという会社がビジネスチャンスを利用して、我々に対し投資しており、また投資だけではなく我々に対し技術協力なども行ってもらっている。また、桃園との関わりがある会社としてアメリカのシスコという会社ですが、こことは協力して開発センターなどを作っている。

スマートシティーの成功した事例について、それぞれ6都市で行っている。台北、新北、桃園、台中、台南、高雄で行っており、それぞれの都市の成功例を共有している。こちらにあるのは、アジア・シリコンバレー学院でVRの体験学習ができるもので、リンク先を後ほど紹介する。この学院の中で行われている特色は、11グループほどでプラットホームの管理をしており、204コマの授業を行っている。テーマは6大テーマを設置しており、現在、学院に入ってきて実際に見ている人は4万1,055人に登っている。

次に、イノベーションと起業のエコシステムについて説明。

イノベーション、起業の環境を整えるということで重要視していることが5つある。一つは法規制などの緩和、人材を取り入れること、また、イノベーションができるような場所を与えること、そして資金の提供、そして国際的な結びつきを作ることである。例えば資金協力の面では、去年の8月に100億元募集し、この資金を使うに値する企業を選定し、その企業が執行団体として動き出している。それ以外に、中央政府の方で徒党を組んで国際会議に出席したこともあると話したが、例えばここに表れている企業というのは、中央政府の方と一緒に国際企業あるいは会議だけではなく、その中から優良企業を選定するものに応募し優良企業として選ばれた企業である。こういった企業のコンテストがちょうど7月に行われているのだが、まだちょっと時期が早いため今日の時点で見ることはできないのだが、そこで入賞した企業などを展示館で展示する予定である。

また、投資環境の整備として、国際的な方々がきても研究開発に勤しめるような基地の設定、あるいは海外に住んでいる台湾人の人たちとの交流を積極的に行って行くこと、あるいはすでにフランスと提携を結んでいる企画を進めて行くこと、また、IOT関係の展覧会に積極的に参加すること、また、フランス以外にもイスラエルと連携しているので、そういった方面の協力を実行していく。

今示している図だが、これが去年だけで起業された会社になる。それぞれの四角が分野になっているので、これを見るだけでそれぞれの分野でたくさんの会社が起業していることが分かる。

これは、その起業した会社の中で、特に成功している会社だが、左側はIOT産業の分野で起業した「CoCoRo」という会社で、桃園に本拠地を構え電気バイクを製造する会社。また左側はAI人工知能の会社で「アピエ」という会社。

これから変貌として、この計画は終わった計画ではなくますます発展していく計画であるので、これから力を入れていきたいところがAIの応用。また、無人自動車のソリューションについて構築を行うこと、また、桃園や他の都市で行われていることが、どんどん成果を上げていくことである。これ以外に、すでに色々なところで創業基地を建てているので、これをさらに国際化し、建設して行くこと、また、AR、VRなどの技術に関して海外からの投資を得るために、ビジネスチャンスを作り上げて行くことなどがこれから目標となっていく。

説明は以上。

## 質疑応答

Q森川 産学官の連携がうまく取れているようだが、その点はどうか。

A林 先に説明したエコシステムに関して、連盟などを利用しているのだが、国内においては、学校では素晴らしい技術を持っている、産業の方では資金を持っている。それらをどうやってつなげていくかが分からぬ場合、中央政府のシステムを利用して、そこでうまく繋げていく、そして、資金を持っているところが、資金が必要で開発能力のあるところにちゃんと届くように中央政府の方で努力している。それ以外に中央政府の国の機関としては、指導委員会と言うものを立ち上げており、それぞれの部局の部長が集まって、どの方面でどのような必要性があるかを検討する会議を設けている。それとは別に、民間の企業の実際に執行するような部門からも委員会を形成してもらって、民間が実際に進める上でこういうことが必要だといった意見を上げてもらい、その二つが通るようにする、4クール毎か半年に一回は行うようにしている。

Q森川 その中央政府の指導委員会との連絡、会議を開くなどの連絡はどこから発信されるのか。

A林 それは実行センターの方でやってもらっている

Q岡下 中央政府と桃園市、桃園市といえども基礎自治体の直轄市、桃園市の中で法規、日本では法律を作るのは国会、地方は条例、法律を超えた条例は作れない、その中で、中央政府は桃園市とどのような関係でこれらを進めているのか。特に、桃園市の意向、特に若いスタッフの方が自由に発言をして仕事ができるような環境になっているのも日本ではなかなか行政の中では考えにくい。一定の年齢を経て係長になり補佐になり課長になり、定年前に局長にならないといった場に出てこれないというのが私たちの感覚だが、私たちが不思議に思っているところを説明してほしい。

A郭 まず郭主任から3点ほど答えさせていただく。

1点目として、このアジア・シリコンバレー計画自体は国の計画となっており、国の計画で色々な都市に産業の発展にあった執行をお願いしているのだが、その中でも特に桃園を本拠地としているので、その関係で桃園に専門事務所を建てた。それも建てろと

言われて建てたわけではなく、選んでもらったので建てるかといった感じで、こうしてくれたからこうするという心持ちで建てている。なので、上から言われてやったというわけではない。桃園からもやってやるからと言って上に声をかけるわけでもない、と言うような協力関係にある。

で、アジア・シリコンバレー計画の拠点が桃園にあるので、国の方もお前らやれと言った態度でもないので、実際に携わる者がどう考えているかを聞く耳を持っているというのが一つ。

それぞれの都市の経済発展の形に合わせて振り分けをしているので、実際に発展の仕方がわかっているのが桃園市の人間なので、中央政府の方からもお前らこうしろとの指示は出してこない。なので、その間のやり取りというのは、計画の大枠を作っている側とそれを実際に実行する側と、上下関係ではなく分類の関係である。実際にブレーンの部分と働く人との関係。

二つ目の若い世代の考え方を取り入れやすいについては、桃園の特色もあるのだが、先ほど平均年齢が低いこと、また、台湾で唯一青年事務局を建てている関係で、また、市長が青年の声を聞くことを政策として重視しているので、青年事務局が立ち、政府と若者がつながるという機会ができた、で、政策の中で青年に対する福利を高

くしていこうということで、例えば就業の手伝いなどをするようになった。そういうことから、割と簡単に青年の声を集めやすいという流れができた。こうしたこともあり、青年の声を聞くことも簡単で、取り入れることも簡単になっている政策的な流れがある。

3点目、台湾には事務官と政務官があり、事務官は一般的な公務員、試験を受けて採用されるそれぞれポストを歴任するタイプ。対して、政務官は公務員ではないが指導的立場にある者、事務官は一つずつ上がってしていく中で、例えば法律のプロなどとしてキャリアを積むが、政務官は若くても、公務員でなくともそこのトップになる可能性がある。ただ、政務官も自分たちはこの方面的のプロではないということを分かっている、ただ、新しい発想を持っているということなので、事務官にとっては国の法律は型としてしっかりと持っている、それに加えて若い政務官がこれをやりたいあれをやりたいと言い出したときに、事務官が「これはこの枠の中でやってくださいよ」と収めることでバランスをとっているのが我々の行政文化。

補足だが、我々の執行機関にもそれぞれの部や局がある、それぞれの部局でやってる業務内容が違うので、割と伝統的な業務内容をやっているところでは若い人を見る機会は少ない。例

えば環境保護などはそれなりの知識と経験がないとやっていけないので、そう言ったところにポンと若い人が出ることはない。例えば、郭主任が所属する経済発展局あるいは青年事務局。青年事務局なのに局長が青年っぽくないとなるとおかしくなってしまうので、業務内容によって若い力を入れたほうが効率が良い場合は、部局内の年齢層は若くなってくる。

Q白石 都市を、国を挙げてシリコンバレー化していく中で、企業を誘致したり若い人を呼び込む上のソフトとしてのインフラはすごく整備されている。それに合わせて必要なハードの部分、建物だとかもできてくるのだろうと思うが、一体、全体としていくらぐらいかかる事業なのか、また、建物以外でハードの部分のインフラとして今後整備を考えているものがあればお聞きしたい。

A郭 インフラ関係は詳しくどの方面が知りたいのか？例えば物流が主なので、交通ではどこを強化したいのかとか、あるいは水道なり。

Q白石 例えば自動運転を実用化していく中で、我々のイメージであれば

携帯電話のネットワークであるとかを利用するのだろうと言ったイメージだが、自動運転を実用化する上で必要なインフラ。我々が理解できるものであればいいのだが、新たにこう言ったものが必要だ、新たに考えているんだと言ったものがあれば。一般的な交通インフラ、鉄道や高速道路などの整備は進んでいるので、新しく自動運転を取り入れるのに関して必要な新たなインフラがもしいれば。

A郭 政府の予算については林氏より。

桃園については総額は出したことがないので個々の案で説明すると、虎頭山の開発センターは、国有のものを桃園に譲渡してもらうので土地代はかかっていない、また、すでにある施設を改良していく予定なので、その改良費にお金を使うぐらい。虎頭山でっている予算は1億5,000万台湾ドル。また、政府の研究開発センターについては、台湾の企業と一緒にやっているので、政府からお金は出ていない。既にある企業の開発センターなどに協力をお願いしているので、お金はかかっているのだが、政府から出ているお金は無い。

補足として、1億5,000万台湾ドルの予算があると言ったが、内訳は3つほどに分かれており、一つは建設関係、

研究開発センターの建物自体に係るもの。インフラの話だが、無人自動車、現段階では台湾の法律で一般の道路を走ることができないので、運行実験を行えるのはこの開発地区内だけでの運行になることから、開発地区で実験を行うために模擬試験場なるものを作る必要があり、信号をそこに立てたり、模擬道路などを作ったりする予算が2つめ。3つめは、それをスマート化を図ろうとすると、データの移動の安全性、通信の安全性が必要になってくるので、例えば、データが壊れずにちゃんと届くかどうかなど、通信の安全性を検証するための施設とその技術に対する予算。

それ以外に研究開発センターでは我々がお金を出さずに企業がやってくれている話だが、これに関してなぜ企業が協力してくれるのかというと、今話し合っている一つの案として、こういった企業の方々は、投資するだけの価値があるかどうかを見る。この案件というのはグリーンエネルギーを試したいと思っている企業の案件だが、例えば虎頭山エリアで我々は土地を持っており、そこでこういう実験をやりたいという人のために実験場を作っても良い土地として差し出すことができる。政府は利用したい企業に土地を貸し出すことができると企業側は見ているので、企業はそうやって

借りて、ため池の上にソーラーパネルを設置する。そこで発電された電気を無人自動車のための信号に電力として供給できるかどうか、余った部分を彼らが開発した電池にちゃんと蓄電できるかどうかというのと一緒にやりたい、という風に話しをしているそうで、桃園市はお金がかかっていない。しかし、やりたいと思ったことを実現させるだけの土地を持っているというのが一つのポイントとなる。

A林 補足説明として、今の所1億5,000万台湾ドルで無人自動車の実験場を作っているわけだが、中央政府とも関わりがある部分なので、例えば他の企業がこの計画に参加したいという風になってきた場合、この予算では足りなくなる可能性が今後考えられる。それ以外に無人自動車の経路を作る上でコントロールセンターを整備したいと考えているところもあるので、例えばそういった新しい人たちが入ってきてさらに予算がかかるとなった場合に、頼るべき先は国ということで、こういう計画が来ている。國の方でもこれを推奨する用意があるので、そういう場合に國に申請をして、新しくこの項目を発展させるための予算をもらえないか、と言うことができるシステムはある。

国の方で科学技術発展のためにとっている予算は、1,110億台湾ドルほどある、これを法人であったり学校であったり地方自治体であったりに振り分けるようになっているのだが、この予算はその年度、クール毎に成果を検査され、成果が出ていなければ来年度の予算が減額され、必要なところには増額され、調整させるようになっている。シリコンバレーの計画は単年度の事業ではないので、年ごとの予算は分からぬが、過去2年間では70～100億台湾ドル程度がアジア・シリコンバレー計画に投入されている。

Q白石 4年前に新竹を視察し基礎研究の面で成果をあげている様子を見た。隣ということもあり連携されることについては説明をいただいたが、都市間での役割分担などはどうに考えているのか。

A林 新竹で有名な科学技術エリアというのが2つある。一つは科学技術エリアで、強みは半導体、ICなど。もう一つは工業地区で、こちらはコンピューター産業など、またコンピューターハードや部品の製造業が有名。これが元々歴史的に新竹で強いところだった。それ以外に、台湾の産業として元々強かったものにICTに関連する産業があって、特にハードの面では同

様にICチップなど元々技術を持っていた。しかしIOTに関連する部分で弱いところもある。部品はたくさん作っているが、全体に至るところが無い。さらに、IOTは部品だけではなく、できたハードをまた別のハードとつなぐことをするのだが、そういった全体的な設備に応用していく、といったところが台湾には無かった。そういう点から、台湾に今一番必要とされているのは、全体を見据えた計画とそれをやってくれるだけのイノベーションの力。元々強かったICT関係の部品産業に加えて、IOT関係の今台湾にない企業を作っていくという、イノベーションなり起業なりの開発センターを作っていくことで、無い企業を埋めていくこと。これによりハードの部分の応用が可能になるので、それができれば、その専門の企業もいくつかできていると思うので、経験をそれぞれに分けるためのプラットフォーム化していくこと。知識のやりとりがうまくできるようになれば、さらにサービスの効率もアップするよう計画されているので、この計画の中では、それぞれの区域にとって同じように工業特区であるがその中で行われている産業の分類は別々になっているので、その部分での住み分けはできておりぶつかることはない。

白石 補完関係の中で全体の底上げ、発展を目指すプランと理解した。発展を祈る。

Q神内 素晴らしい計画で、是非ともアジアのシリコンバレーとして発展していただきたい。日本は少子超高齢化で、人口も東京一極集中となっており、地方は疲弊している。地方で子供を育て、大きくなると東京へ行って人がいなくなる。台湾ではそういう状況はあるのか無いのか。

A黄 実は台湾でも桃園だけが特別で、他は少子高齢化に悩まされている。他のところの説明はできないが、桃園だけは右肩上がりで、その理由として台北、新北の人口は減少の一途をたどっている、台北、新北は地価が高い。若い人たちが家族を作ろうとしても家が手に入らない、賃貸でも手が届かずどんどんどんどん地価が上がってしまうので、そういった人たちが台北や新北ほどではない桃園に家を買いに来るということもあり桃園は右肩上がり。また、産業の上でも誘致に成功していて、いろんな産業が集まっているので、その会社と一緒に動いてくる人、台北では仕事がないが桃園で仕事が見つかったりして色々な種類の人たちが移住している。(黄さんも

いい例で、元々台北に住んでいたが登園で家を買ったので、本拠地を桃園に移し、桃園で仕事をしているそうだ。)

郭 地価がわりと安いこと、産業があるいは仕事の機会、ビジネスチャンスが大きいこと以外に、公共の交通機関。元々は台北だけが発達していくそこから桃園まではバスで1時間半という状態だったのだが、メトロの開通や新幹線の駅ができたことで移動が苦ではなくなった。交通の発達もあげられる。また、それ以外に、これまで申し上げた三つの要素は、外にいる人たちを移住させることに役立っているのだが、桃園市の中で子供が生まれてくることにも力を入れており、若い人たちが家を買いやすくするため公共住宅地（自分で家を買うよりも安くになっている。低所得者が入りやすい）を建てて紹介をしている、また、子供を産むと補助金がもらえるなど、待遇も割といい。一人当たり30,000元で、3歳になるまで毎月3,000元のミルク代やオムツ代がもらえる。

Q神内 子育て支援もしっかりとしているのだな。

岡下 時間もかなり超過しているのでこれで終わりたい。

7月7日（土）15時～21時

## 第4回 対日交流サミット

### \* サミットの起源と目的

日本と台湾の地方議員による「日台交流サミット」が、7月7日に台湾高尾市で開催され。2015年から第1回の金沢市、第2回の和歌山市そして第3回の熊本市をはじめ全国の約40自治体から320名余りの地方自治体から来台し、台湾側も22自治体から100人余りの地方議員が参加し交流を深め、今年は「台日友好の新時代到来」をテーマに議論した。

今大会は、日本で開催されていた第3回までの日本による開催と違い、台湾の高雄市議会康裕成議長のご尽力により初めて開催された。

### \* 台湾高雄市 康 裕成議長 歓迎挨拶

両国地方議員の良き友人の皆様、ようこそおいで下さいました。この情熱的な真夏の高雄市で、互いの理解と友好を深めましょう、と熱烈歓迎を表明。

日台交流は今年で四年目になり、台湾で初めて開催される大会です。300人を超える日本の議員と40団体が参加し、日台友好は最高の時を迎え、両国の地方議員は永久不変の歴史を刻むでしょう。そして「真心で向き合うこと」それは日台友好の礎となり、互いの痛み悲しみ、喜び楽しみを、身近に共感することで、友好の種は私たちの心の中で芽生えます。

ご臨席頂いた皆様に心より感謝申し上げ、皆様のご参加によって、第4回日台交流サミットin高雄はさらに素晴らしいものになり、高雄市議会は日台交流の先駆として、両国関係の歴史を刻みます。私たちは共に、友好交流の新たな1ページを開きましょう、と挨拶。

### \* 日本全国日台友好議員協議会 藤田 和秀 会長 挨拶

(名古屋市議会議員・名古屋市会日台親善議員連盟 会長)

日本から300人に余るご参加を頂いたこと、一部豪雨により日台友好サミットに参加出来なかったこと、そして西日本豪雨被害のお見舞いに対し御礼を申し上げるとともに、国交はないが地方議会が友好を結び、2015年の石川県金沢市での第1回日台交流サミットの開催を皮切りに、2016年の和歌山県和歌山市、

2017 年の熊本県熊本市、そしてこのたび、「2018 日台交流サミットin高雄」が、念願の台湾で開催されることとなり、高雄市議会 康成裕議長をはじめ、関係各位の皆様の御尽力に心より感謝申し上げ、今後も、日台の絆をより強く！と挨拶。

また、第1回日台交流サミットin金沢は、安達前市議会議員が第1回日台交流サミット主催の委員長として開催し、第2回日台交流サミットin和歌山は遠藤富士雄市議会議員が委員長として、そして第3回の日台交流サミットin熊本は原口熊本市議会議員が委員長として開催したことが、今回の高雄大会において紹介された。そして、今回の高雄大会のご成功と皆様のさらなる御発展と御繁栄を御祈念申し上げます、とあたたかいメッセージを送った。

\* 行政院長（首相に相当） 賴 清徳氏 来賓挨拶

\* 總統府秘書長（官房長官に相当） 陳 菊氏 来賓挨拶

日本から多くの皆様が参加いただきありがとうございます。台湾に於ける地震被害に対する、安倍首相からの台湾頑張れのメッセージを大変嬉しく思います。

日台の民間友好関係は 600 件以上あり、これからもっともっと増えると思います。台湾は、インドとの友好を日本と共に深めていきたいと思います。また、小さな漁村であった高雄が国際都市になったのは日本のお陰であり、今後も更なる友好関係を全ての面で深めたいと挨拶された。

\* 高雄市議會友日議員誼會 會長 蕭 永達 挨拶

国と国を隔てている境界線がしだいに緩まっていき、また同時に、町が個性や特色を色濃く持ち始めた今日この頃、振り返ればこの土地での数々の経験が国際交流での知恵や見識を育んでいました。多くの物事を正確に把握、管理し、アクティブな姿勢で取り組む事がいつの日も大きな課題となっています。

おかげさまで日台交流サミットは第4回を迎えることができました。地方議会を主体とした日台の各議会の皆様の有意義な交流により提供することができ、参加都市も年々増えております。

今まで高峰会が順風満帆に続けてこれたのも、日台の友好関係を確かなものにした、各地の行政の垣根を超えた議員連盟及び地方議会の皆様の自発的な御

協力があつてこそです。今日もここで私たちの台日間における交流の新たな1ページを刻めることを祈念しております。

#### \* 高雄宣言

康裕成議長と藤田和秀会長が宣言書にそれぞれ署名交換し、藤田会長が感謝状と和傘を記念品として、康議長が縁起物のふくろうを記念品として交換。

その後、康裕成議長が高雄宣言として「日台観光の共栄と台湾のCPTPP（包括的及び先進的な環太平洋パートナーシップ協定）等の国際機関への参加を支持することを宣言した。

#### \* 特別講演 台北駐日経済文化代表處 代表 謝 長廷

今回の日台交流サミットの講演は「日台交流サミットへの期待」として、常に変化する時代と都市の友好をテーマに講演された。

##### ・内容

今回の日台交流サミットが高雄で開催されたのは、康裕成議長の努力によるものである。私が市長のときは、一回も総統府から来なかつたが、康裕成議長をはじめ地方議会の努力によって中央政府を動かし、行政院長（首相に相当）賴清徳氏などが御来賓としておいでいただき、今大会を意義あるものとした。

日本とは、例えば免許証やパスポートの垣根を取り除くことにより、また飛行機の便を増やすことにより、日本からの観光客は5倍となり、190万人が台湾を訪れた。また日台間の災害も助け合いのシステムいわゆる「善の循環」が形成され、より一層緊密になった。今後、この善の循環を東アジア環太平洋諸国に広めることが重要である。

#### ○ サミット

##### \* 講演

☆経済概念の協力模式を動かす「高雄市の老人福祉の推進経験」を樹徳科技大学社会ビジネス学部専任助教授 陳明賢先生が、また「超高齢社会マーケティング」について株式会社電通 斎藤徹先生が講演された。

##### ・内容

台湾に於いても高齢化が進みつつあり、日本での高齢社会の解決策は、台湾の高齢社会の問題解決になる。超高齢社会における行政の役割を民間に行ってもらう。また日本の富士ソフトが開発した会話ロボット「パルロ」が高齢者施設で活躍すること、排泄を予知する未来スピーカーの利用、また買物難民を助ける移動販売、ごちゃ混ぜの街づくり共生社会が必要である。日本の高齢社会

の問題解決が台湾、韓国の高齢社会の解決につながる。

☆農業については、行政院農業委員會副主任委員 李退之先生が「創新農業行銷」を、青森県農業協同組合中央会会長 阿保直延先生が「青森リンゴの生産基盤化・所得向上に向けた取り組みと今後の展望」について講演された。

#### ・内容

台湾においても農業は、生活に一番密着している。しかし台湾は耕作できる面積が少ない。台湾の主要作物は水稻であるが、お米の消費は30年前に比べると1/3の1人当たり30kgと減少し、現在は政策として、減反を行っている。そのためお米については、品質の良い美味しいお米の生産をしている。また台湾は高地に畑もあり、お茶の発酵技術は世界一でお茶に力を入れている。また、気候的には亜熱帯から熱帯であり、マンゴーや台湾バナナなど美味しい農産物を味わってもらいたい。台湾ナツメも大変美味しい。台湾の農産物の種類は多いが生産量が少ないが、多くの皆様に味わって頂きたい。

日本のリンゴについては、青森県が全国生産量の50パーセントを占めている。しかしリンゴの消費の減少が問題であり、老木の対策や欧州リンゴの対応など日本のリンゴを取り巻く環境は多変厳しい状況ではある。しかし、安全安心で品質管理の行き届いた美味しいリンゴ生産を今まで以上に行い、輸出など消費拡大を行っていきたい。

7月8日（日） 9時30分～  
日台議員交流協会サミット 二日目 エクスカーション

### 高雄市立図書館視察

サミットのエクスカーションに参加し、高雄市立図書館と高雄市営の新交通システムについて視察を行った。



高雄市立図書館エントランス

入口前には、高雄の原風景をイメージし、大きな木をモチーフとしたエントランスが広がる。このエントランスには4本の柱があり、丸い柱はエレベーターなどを收め、四角い柱は水飲み場などを收めており、丸い柱は周辺の地域を表す意味も持たせてあるそうだ。

また、エントランスの四角い柱の一本には24時間利用できる返却機が設置されている。この返却機は、返却口に一冊ずつ挿入すると、その後ろの部屋で返却フロア別に分類されるようになっており、返却後の作業の効率化を図っている。

また、この広場は市民に開放されていて、太極拳をしたり、いろいろなことに利用されている。我々が到着した頃は、11時の開館を待つ市民が多数集まっていた。



入館して、まず進んだのは地下の図書室。ここは児童書を中心としたスペースで、18カ国の児童書が整備されている。もちろんその中には日本の児童書も多数あり、中でも一冊1万円以上する大型児童書が人気があるそうだ。



トイレは男女・障害者用共に海の中を表現しており、熱帯魚やクジラなどのたくさんの生物を細かなタイルで描いていた。魚探しゲームなどにも利用するそうだ。





貸し出しの手続きを行うカウンターは、船をモチーフにデザインされており、子供達が図書館を好きになり、読書好きになって欲しいとの想いが表現されており、特に児童書のコーナーには力を入れているようだった。



特に目を引いたのは、ちょっと場違いに感じる紫外線殺菌装置。子供が対象のコーナーでもあることから、インフルエンザなどの流行時期にはこの殺菌庫を使って殺菌してから棚に戻すそうだ。

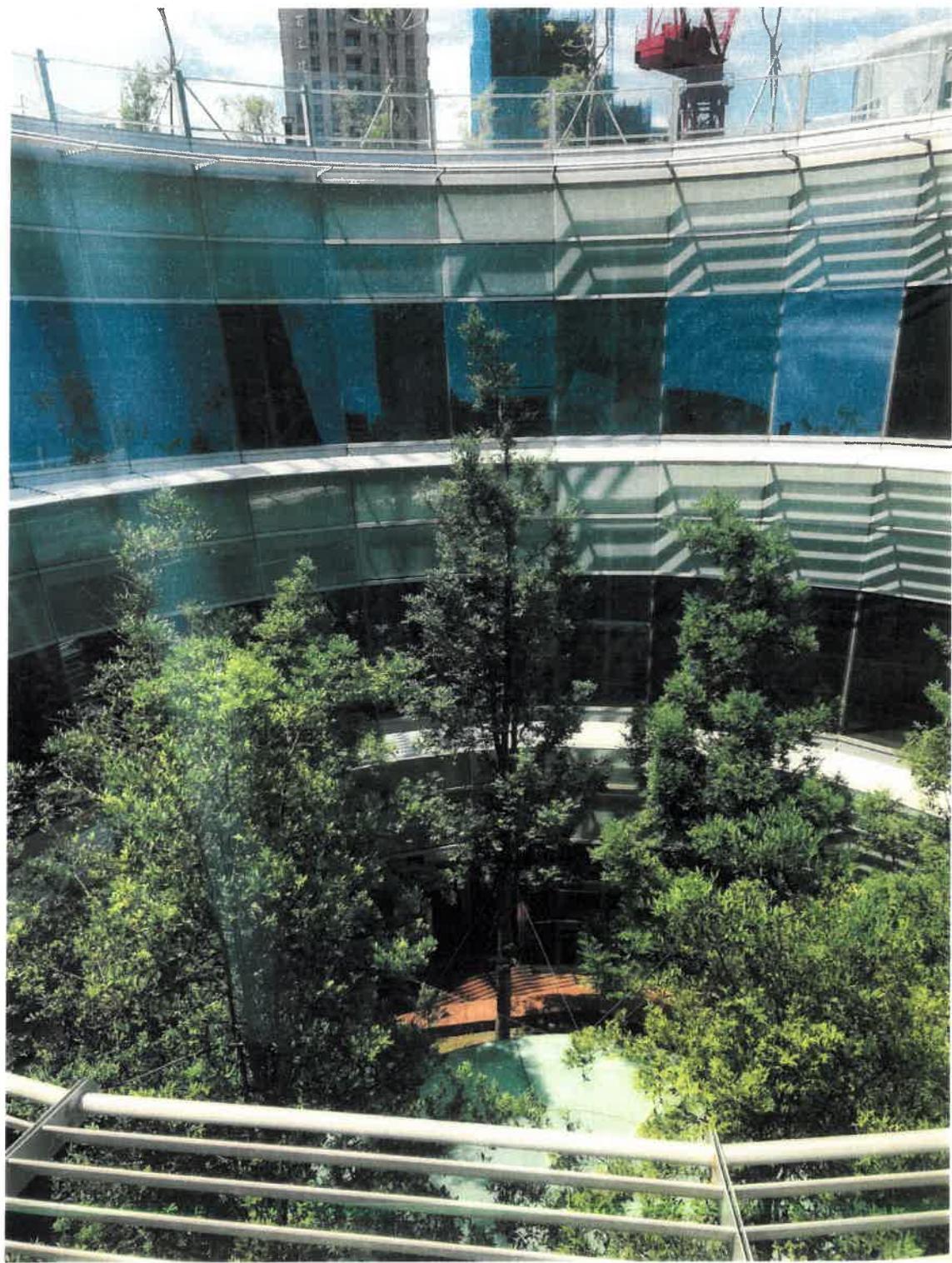


一般図書のフロアは、自然光を上手く採光しており、8階から2階までの吹抜け周辺の読書カウンターは、館内で一番の人気スペースだそうだ。また、視聴覚資料の閲覧コーナーは大型モニターとソファーでまるでリビングシアターのようなゆったりとしたスペース作りがなされており、家族連れで利用する人も多いそうだ。



高雄市立図書館は週末だけで1～2万人が訪れる高雄市民の人気スポットとなっている。

施設は2015年に完成。高雄市の単独整備で総工費が約20億元、日本円にして約60億円。しかし、図書の整備目標を100万冊としながらも、施設整備で予算を使い果たしたため当初は本を買うことができなかった。そのため、苦肉の策として市民から寄付を募り、毎年、少しずつ本を増やしてきた。現在、目標には届いていないが、オープン5年で80万冊まで整備が進み、目標まであと20万冊となり、図書も充実してきた。これからも市民に協力を呼びかけたいとのことだった。「日本の皆さんのお願いします」と職員がPRを行っていた。



この図書館のコンセプトである木をイメージできるよう中庭にはナギの木を植えている。ナギの木は成長のスピードが遅いのでこういう場所には向いている。

また、中庭の木が植わっている部分の上部にはガラスが入っており、自然光の採光口となっており、そこから下のフロアに十分な光を届けている。

この明かり取り窓から入ってきた自然光で明るく照らされるカウンターは一番の人気の席で、先ほどの入館順番待ちの人たちもこの席を早い者勝ちで取るために並んでいる。

消化設備について、火災の際スプリンクラーを設置した場合、消火のための水で本が駄目になってしまうので、シャッターによる防炎機能を備えた場所としている。

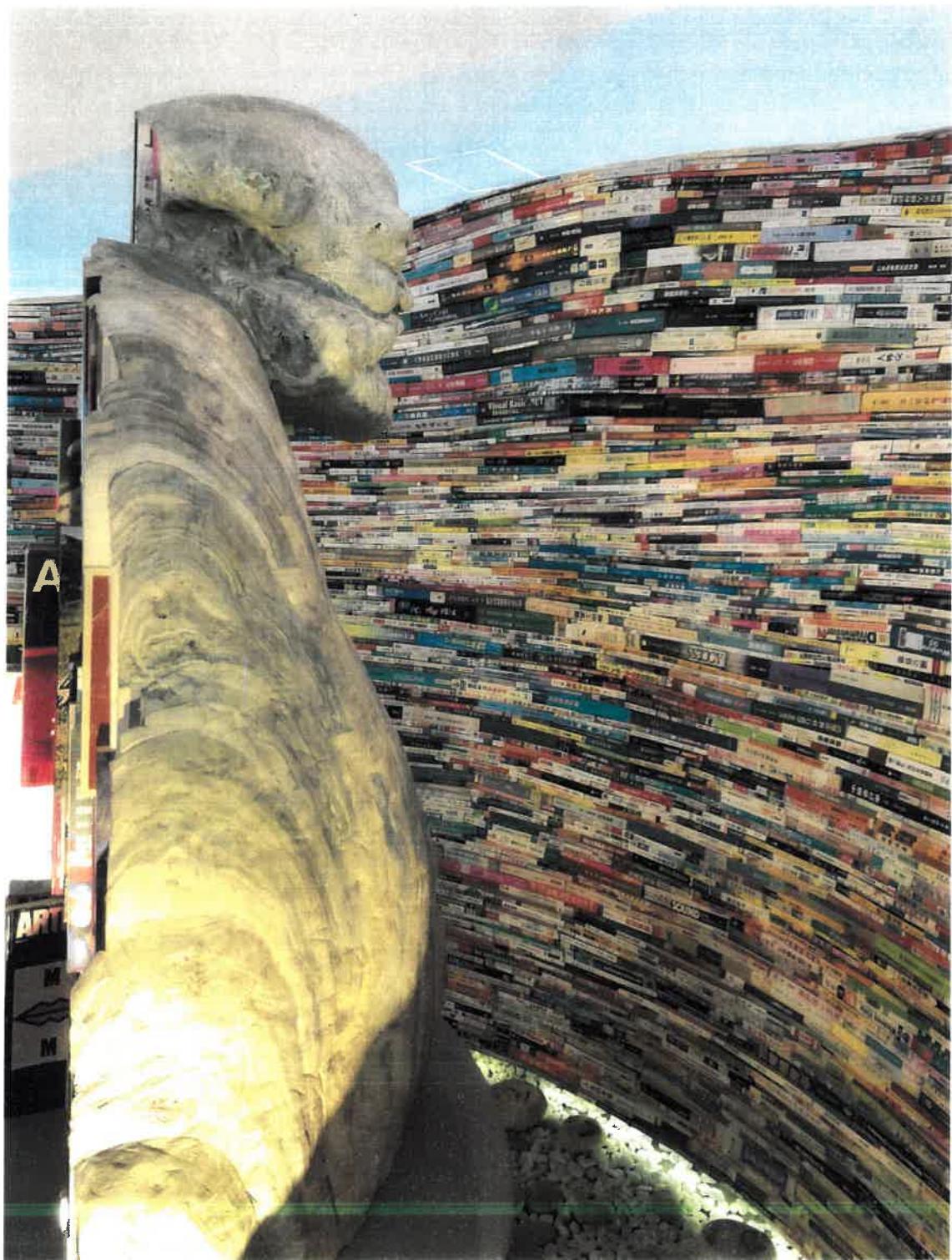
もう一つの特徴として、この建物は、懸垂式の建物だそうで、基礎を作つて柱を立て、それに8階の屋上分から順番に吊り下げてフロアを作つていくといった構造になっている。しかし、このような懸垂式の建物は大勢の人が階段を一度に上り下りするとフロア全体が揺れるなど不都合な点もある。



この施設の空調は床下からの吹き出しになっている。

フロア下全体が空洞になっており、床の丸い吹き出し口から冷気が吹き出しそうである。<sup>う</sup>  
こちらの方が高いところから冷やすより非常に効率がよい。特別大きな人以外は下から冷えていく方が涼しく感じる。





この図書館では、西洋文学の代名詞としてのダヴィンチ、そして東洋の人として達磨大師が本で作られて展示されている。

これには西洋と東洋の知識をここで得ることができる、という考えが含まれている。



建物の入口1・2階には、飲食店や喫茶店、レストランといった飲食施設が入っており、非常にリラックスできるスペースとなっている。

## 高雄市営環状軽軌（高雄LRT）視察



図書館の視察ののち、高雄のライトレールトランジットLRTの駅に向かって徒歩で移動し、そこでLRTの説明を受ける。

高雄の町は超高層の建物と全く手つかずの土地のコントラストが非常に出ていて面白い街。今後、ますます成長し発展していく開発が期待されている街である。

これは高雄市営の路面電車で、近年各地で導入が進んでいるLRTのタイプの中でも特に、無架空線仕様の車両にて運行されている。

無架空線で運行するために、この車両は駅停車中の約20秒で駅の庇に設置された充電用の架線からの電力供給で充電を完了し、次の駅まで走行が可能なもので、その結果、線路上の架線が不要なため、一見、LRTなどの路面電車が走っていると気づきにくいが、軌道内には富山と同様に芝生が植えられており、併せて都市の緑化や景観の美化にも一役買っている。



路線の駅間は、バス停程度の100~300m間隔で運行されており、図にあるように、今年度の整備により全て完成したときは全37駅となる。現在は14駅が完成しているが、全て完成すれば、高雄市をぐるっと一周できる環状線となる予定。

また、レールにも特徴があり、列車の走行するレール上部以外は制振・防音のためゴムで覆われているものを使用しており、その結果、車内の振動や周辺への騒音が抑制されるとともに、レールの隙間が非常に浅く安全にできている。



また、車両内は、車両の連結部分の開口が車両の断面に近い程の大きな開口部となっていることから開放感のある車内になっている。また、先のレールの効果もあってか、車内は静かでスムーズな乗り心地であった。

7月9日（日）9時30分～

基隆市林市長表敬（基隆市役所）

台風8号が基隆市に接近する危険が迫っており、対策会議が長引いていたため、予定の時間より30分ほど遅れての表敬訪問となった。

まず始めに、林市長より「高松市議会訪問団の皆さんご訪問ありがとうございます。大変、遅れて参りましたことは申し訳ありません。」「明日午後から接近するとみられる台風8号の対応会議が開かれていますが、会議が長引いてしまいました。大変ご迷惑をおかけしました。」「今回の台風はとても大きく強力な台風であり、予想進路から基隆市が直撃すると思われますことから、十分な対策を取りたく思います。」

「また、日本は先日の大雨で大変な災害になっています。四国も大きな被害がでています。高松市は大きな被害はなかったと思います。」

「昨年より友好都市として高松市と基隆市は親交を深めてきました。両市の学校間交流は既に始まっております。」

「来年開催の瀬戸内国際芸術祭には基隆市から訪問団を作り高松を訪れたいと考えています。」「今回の視察には基隆市の町を見てください。」と挨拶があった。

次に、岡下団長からは「私たち6名の高松市議団の訪問についてこのように歓迎して頂きありがとうございます。また、日本のことの大変心配していただきありがとうございます。」「この災害で現時点で100名以上の犠牲者がでています。何かと心配ではあります。」「林市長におかれましては、接近する台風の対策が大変だと思います。」

「昨夜、泊まりましたエバーグリーンホテルの1階で日本食フェアをやつしていました。本当に関係者の方の御尽力に感激しています。」「瀬戸内国際芸術祭に是非ともおいでください。」「また、2020年開催の東京オリンピックホストタウンに高松市がなっています。その際にも是非お越しください。」

「最後になりますが、私たち市議会といたしましても、今後基隆市との議員間



交流も多くなることや両市の発展を心よりお祈り申し上げます。」と挨拶。

林市長が「本当にありがとうございました。どうぞよろしくお願ひします。」と述べられ、この後、記念品の交換と写真撮影をした。

なお、市長との表敬の場に最初からご臨席いただいた基隆市形象商圈促進会（KEELUNG BUSINESS ASSOCIATIPN）の許顯揚理事長は、その後も我が市議団に同行して頂き手厚く歓迎して頂いた。

許理事長は麺類の販売をしている会社の経営者でもあり、香川県との麺交流や、麺バトルの実施のほか、物産展などを通して交流が出来れば最高です、と多くの提案をいただいた。

10時30分～

(株) 台湾港務会社基隆支社表敬

西岸コンテナーセンター・光華塔視察

次に、基隆港の視察に向かった。途中、台湾ガイドの方から、昭和7年頃からの日本国統治下時代からの道路や線路、倉庫などの話があり、改めて時の流れに驚かされた。

基隆港の西岸のエリア（広大な港の作業エリア）でバスを降りると、巨大なリフトを使い、大きなタンクがトラックに積載されていた。もちろん、この港の中は特別に許可を取って入っているが、台湾第2の物流拠点港（貨物取扱量第二の港）であることを目の当たりにした。現在港の東岸は観光用として使われ、西岸とは使い分けている。西岸は主に軍の船を配船することのこと。東港には年末には世界最大級のクルーズ船が入港することであった。

また、今は一般公開されていない古い灯台の視察を行った。  
高さは5階建ての高さで湾内を360度見渡せることができ、眺望の良い風景と台湾第2の港を改めて実感した。



12時～

基隆市姉妹都市推進会歓迎昼食会（仁愛区【真鮮小吃店】）

基隆市形象商圈促進会（KEELUNG BUSINESS ASSOCIATION）許顯揚理事長

基隆市政府 副市長 林永發博士

基隆市政府産業發展處 處長 林青海博士

基隆市政府民政處 副處長 陳智昌

などの方が昼食会に参加、我々を歓迎して頂いた。



14時～

## 国立海洋科技博物館 視察



日本語案内人の■さんが館内の案内をしてくださった。テーマ館は北部火力発電所の跡地である。

最初に、北部火力発電所をモチーフにした、幻想的なプロジェクトマッピングを約8分間鑑賞した。

次に、海洋環境ホールの中での説明を受けた。「台湾は海に囲まれています。日本も同じく海に囲まれた国ですね。」黒潮はどうなっているのか。

台湾で最も重要な海流黒潮は、北太平洋で最も強い海流でもある。主流はフィリピンの東北部海域に源を発する、太平洋北赤道団粒の分流である。フィリピンのルソン島に接触した後、北に方向を転じ、台湾東部海域を通り、日本の沿岸に沿って東北へと流れ、親潮と出会った後、東の北太平洋の海流へと流れ込む。黒潮がルソン海峡を通過するとき、支流は台湾海峡の南部に入る。この支流は季節の変化につれ、南西の季節風或いは大陸沿岸流の影響を受ける。黒潮は一年中台湾東部を流れている。

恆春（こうしゅん）地域は、黒潮によって運ばれてくる暖かい海水の影響により、一年中ぽかぽかと春のようである、という理由でこの地名がつけられた。一般的に、黒潮は5～8月の間は比較的流れが強く、夏の末から秋までは若干弱まる。1～2月は再び流れが強くなり、初春には弱まる。との掲示があり、興味深く拝見した。



### 黒潮的海面温度（黒潮の海面温度）

黒潮は赤道に源を発し、極めて高い熱含量を受ける。海面温度の変化は主に気温の季節性変動の影響を受ける。台湾の黒潮流域実際の測量によると、海面の平均温度は27度前後である。冬は最低で25度であり、春と秋はその中間にある。最大温度差は、僅か約4度である。

冬と夏の黒潮の温度を体感出来る展示物があり、確かに体感温度では差がないと実感した。

次のコーナーは大きなジンベイザメのモデルが天井に展示されているコーナー。  
フジツボの捕食の生態の説明も受けた。

海洋生物のモデルの展示会場があり、台湾の生態系のモデルが展示されていた。

鳴門の渦潮の仕組みの体験できる展示物もあつた。

これらのゲーム感覚で楽しめる展示物やクイズ形式になっていて楽しめる物などは、小さな子供の興味を引くような仕掛けがなされていた。

地球上の水のうち、淡水は僅かに3%で残りは海水で、海の水圧を実感できる装置には随分と興味深く感じた。



7月10日（火） 9:00～

## 台北市總統府見学



鉄格子を思わせる門扉内にて若い守衛が対応し、背筋の伸びた日本語の堪能な86歳の男性案内人を紹介していただく。

案内人より総統府の常設展示室「府」の案内をしていただく。「府」は、「人民の総統府」を核心概念として、「建物」「日常」「時代」「声」「想像」「味」「我」という7つの分野から総統府の魅力を伝えている。

以下、案内人からの説明。

### 1 建物

1919年に完成された総統府は、当時台湾で最も高い建築物で威厳と権力の象徴であった。この赤レンガの建物は、建設から破損、破損から修復を繰り返し現在に至る。総統府は、ルネッサンス風の建物で、当時台湾で最新の現代化設備を導入した唯一の建築であった。

### 2 日常

総統府は厳肅なイメージの中、府内の各職務の日常の営みは企業経営と同様に、府内の各部門がそれぞれ不可欠な役割を担っている。

### 3 時代

総統は、中華民国憲法により国民から直接選出され、国民から「治権」を託されている。映像は、歴代総統が任期中に国民のために尽くしてきた主な業績を描き出し、

国家の主権は国民に属していることを表現している。

#### 4 声

總統府前の広場は、かつて軍隊による軍事パレードが行われ、そこは統治者の権威を表す場所であった。しかし近年は、デモが行われる場として、主権は人民にあると主張する場所に代わった。

国民の力で社会と民主発展を推進し、国民の声こそが台湾の未来を導く力となった。

#### 5 想像

アーティストたちが創意工夫を凝らし、心にある總統府の理想的なイメージを芸術的に表現している。



#### 6 味

台湾の主要産業は農業。豊富な産物だけではなく、厚い義理人情も味わうことができる。多様な文化に支えられ、台湾各地で地元料理が生まれ、地方の力強さと先人たちの知恵の賜物である庶民のグルメが表現されている。

#### 7 我

「台湾を出発し、世界の人々に台湾をお見せしましょう。この国民の殿堂にあなたの足跡を残してください。こちらで、總統、副總統の等身大パネルと記念写真をお取りください。」と、案内人から声かけがあった。



7月10日（火） 10:00～

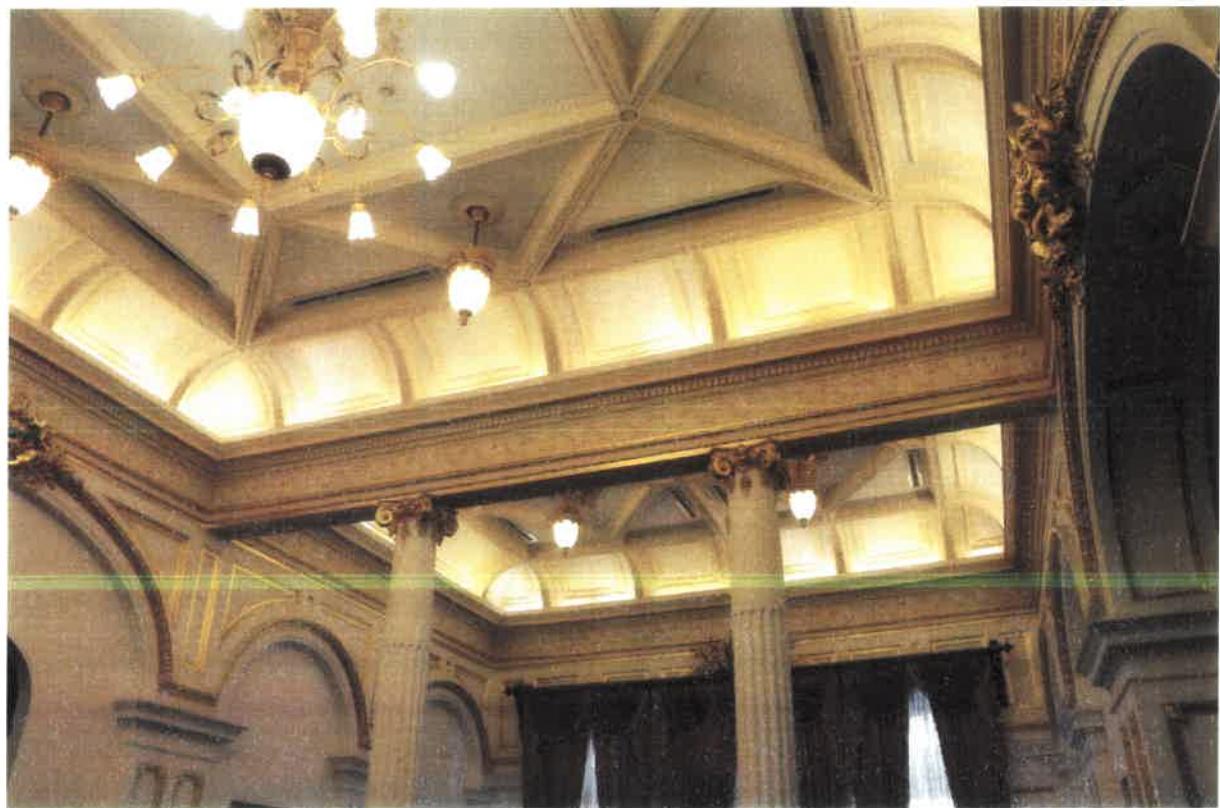
## 台北市台北賓館見学

元日本企業の職員であった日本語の堪能な 63 歳の男性案内人の説明を受けながら館内見学。

台北賓館は台湾の国家招待所（迎賓館）で、台湾外交部が管理している。台北賓館は日本統治時代の 1899 年（明治 32 年）に起工し、1901 年に完成した。もともとは台湾総督の官邸として建てられた。建物は、バロック風の 2 階建てで、庭園は日本風である。日本統治時代においては、台湾総督の暮らす住居と事務の場である官邸であったが、迎賓館としても使用していたため、内装は豪華絢爛で、皇太子時代の昭和天皇をはじめ、歴代首相等数々の要人が宿泊した。

第二次世界大戦の終結後、建物は中華民国（台湾）に引き渡され、以降迎賓館として使われるようになった。日華平和条約は、この台北賓館で 1952 年 4 月 28 日に調印された。

台北賓館は戦後長い間非公開とされていたが、2006 年 6 月 4 日より年に数回の頻度で一般公開が行われるようになった。



7月10日（火） 11時30分～  
三三会主催歓迎昼食会

この歓迎昼食会は、香川県観光協会にお世話になり実現した。三三会は日本でいえば経団連ともいえる組織である。三三会顧問の余吉政氏を始め、日台業務交流室の職員を含め5名の皆様に温かい熱烈歓迎のもてなしを受けた。

昼食会では、互いに、台湾の経済発展や文化、高松市の紹介など意見交換し、親交を深めた。その中で、高松市が昨年5月1日に基隆市との交流協定を締結したことから、互いに公式訪問などを行い、今後益々交流を推進していくこうと話をし、より親密さが生まれた。最後に、高松市でお会いできることを楽しみにしていますと再会を誓い、会を終了した。



13時30分～  
台湾観光協会表敬

財団法人台湾観光協会表敬においては、女性の羅副秘書長から歓迎の挨拶を受けた。台湾観光協会は、1956年11月29日に台北市の台湾省議会内に設立された非営利機関である。日本では、東京と大阪に事務所があり、それぞれが東日本・西日本を管轄している。また、諸外国には、ニューヨークやロサンゼルス、フランクフルト、香港、シンガポール等に事務所が置かれている。

この表敬訪問において、599号となる台湾観光月刊というフリーペーパーの存在が気になりました。拝見させていただいたが、同刊はipadでも電子雑誌としても読むことができる。

この月刊誌は、日本語版で約40ページの構成で、掲載内容については情報などがフリーペーパー方式となっている。「台湾初の4G+プリペイド！桃園空港第一ターミナル出国検査場カウンターにて迅速に手続き可能。1日インターネット使い放題で台湾を楽しもう！」とある。

手に取った月刊誌は、高雄の美濃・旗山で「豊かに息づく客家の文化」として、旗山ではバロック風の街並みを散策し、ご当地グルメとバナナスイーツに舌鼓。美濃では伝統の唐傘作りや擂茶の体験というように、南国の山里を紹介するなど、台湾国内に息づく伝統文化や特産品などや地方の観光資源などが事細かく紹介されている。

本市においても、観光振興のために、各地域における自然や文化、歴史の息づきや街の輝き、そして高松ならではのグルメなどを、定期的に市民はもとより観光客に発信できる情報誌が必要と感じた。そして、インターネット(ipad)などを使った情報提供の積極的な推進が重要である。



15時30分～

### 中華民国対外貿易発展協会表敬

TAITRA（タイトラ）/中華民国対外貿易発展協会（日本でいうジェトロ）の表敬訪問は、台北市基隆路1段333号国貿大楼7階701室で行われた。

まず初めに、対応していただいた TAITRA の林正大組長から、台湾企業・メーカーが、世界市場に産業や経済に関する情報発信を行い、大きな成果を上げているとの話があった。この後、協会としてこれまでの大きな成果などについて、大型スクリーンにて紹介・説明があった。



その内容は、TAITRAは1970年に設立。台湾貿易センターによって、台湾の海外市場台灣經濟は飛躍的な発展を遂げてきた。TAITRAの本部は台北にあり、世界各地には約60の事業所をネットワーク化して、台湾企業・メーカーの国際競争力の強化、海外企業のビジネスマッチング、世界市場への進出、外国企業の台湾調達、投資及び技術協力提携などをサポートする重要な役割を果たしている。

TAITRAの積極的な働きかけで、2017年には「ファインテックジャパン2017」、「PhotoniX2017・第17回光・レーザー技術展」が開催され、本年は、2018年の海外見本市として、台湾国際果実・野菜見本市が11月21日～11月28日まで高雄市にて開催される予定である。

そのほか、日本でのイベントにおける商談会に、台湾企業が参加する際のサポートなどを  
行っているとの説明もあった。



# 団員所感

## 岡下勝彦

7月6日午後から、桃園市政府計画専門事務所において、桃園市郭主査、黃專案經理から説明を受ける。私は、当初モノのインターネット IOT 産業を中心に、アジアシリコンバレー計画が新しい都市づくりと思っていた。確かに、メインの政策ではあるが、バイオ医療技術・クリーンエネルギー・スマートマシナリー・国防産業・新しい農業・循環型経済と総合的かつバランスのとれた都市づくりに野心的に挑戦していた。

また、計画の責任者は20代・30代であり、私が説明をしたところ、現在の部署は今までに経験がないところなので、若いスタッフに任せられているとのこと。他の部所は、年配の方々が責任者として活躍されているとのこと。また、日本語の通訳は桃園市の職員であり、日本人女性であった。主要な言語に堪能な職員を採用していることにも驚かされた。

7月7日全国日台国際交流サミット、翌7月8日エキスカーションに参加。交流サミット開催は、今回で第4回である。第1回は金沢市、第2回は和歌山市、第3回は熊本市と、初めて台湾にて開催された。私も、第1回から参加要請を受けていたが、今回初めて参加することができた。台湾側から22自治体100人余りの地方議員が参加し、交流を深めた。日本側からは、40自治体320人が来台し、旧知の友人も多く参加していた。全国日台友好議員協議会会長幹事長から、将来の開催地として高松開催の提案をいただいた。将来、高松開催が実現できればと思った。

サミットのエキスカーションに参加し、高雄市立図書館と高雄市営の新交通システムについて視察を行った。図書館の入口前には、高雄の原風景をイメージし、大きな木をモチーフとした巨大なエントランスが広がっていた。エントランスというより、屋根つきのイベント広場というイメージである。市民に開放されていて、暑さ対策のためや、また太極拳等に使われていた。地下の図書館では、児童書を中心としたスペースで18カ国の児童書が整備されている。本市の今後の図書館整備に大いに参考になると思う。

7月9日、基隆市林市長を公式訪問した。本市と基隆市は、昨年5月に交流協定を締結しているが、それ以前から高松市議会と交流しており、本市議会が締結に当たり果たした役割は大きいと自負している。林市長は、家族で来高されたこともあり、旧知の友人である。当日は、台風8号が基隆市を直撃するという予報であり、危険が迫っている状況であった。親日的な台湾では、連日日本の西日本豪雨の報道がされており、林市長からも、四国の被害、高松の被害について大変御心配をいただいた。私から、来年開催の瀬戸内国際芸術祭の御案内を申し上げたところ、基隆

市から訪問団を作り、私もいっしょに高松に訪れたいと話された。

基隆市形象商圈促進の許理事長主催の歓迎昼食会に招待された。許理事長は、台湾麺を扱う企業経営者であり、基隆市の商工会議所の会頭でもある。今年6月に基隆市公式訪問団の一人として来高され、本市主催の歓迎会にて私と偶然隣同士となり、将来高松のうどんと台湾麺交流ができればと大いに盛り上がり、今回の歓迎昼食会となった。許理事長は、市幹部、商工会メンバーさらに奥様、御子息もいっしょに我々を歓迎していただいた。

基隆市のホテルに宿泊したが、入口には日本人形、レストランでは日本食フェアを開催中であり、市民に根づいた交流協定になっており、感激した。今後さらに、両市民の交流が深まる施策を検討すべきと考える。

7月10日、台湾三三企業交流会主催の歓迎昼食会に招待された。加盟資格は、年間総上が台湾国内で100以内の企業グループに限るとされている。会員である私の友人が歓迎昼食会の調整をしてくれた。

台湾経済の見通しについては、2016年の実質GDP成長率+1.5%に対し、2017年、2018年はともに+2.3パーセントになると予測しているとのこと。iPhone 8要因を追い風に再加速が想定されている。

今後のさらなる成長が期待される台湾企業と本市企業との、経済交流を深めることが今後の課題である。



森川 輝男

### アジアシリコンバレー計画について

桃園市の政府計画専門事務所にて、「桃園市アジア・シリコンバレー計画」全体の計画概要の説明を受けた。

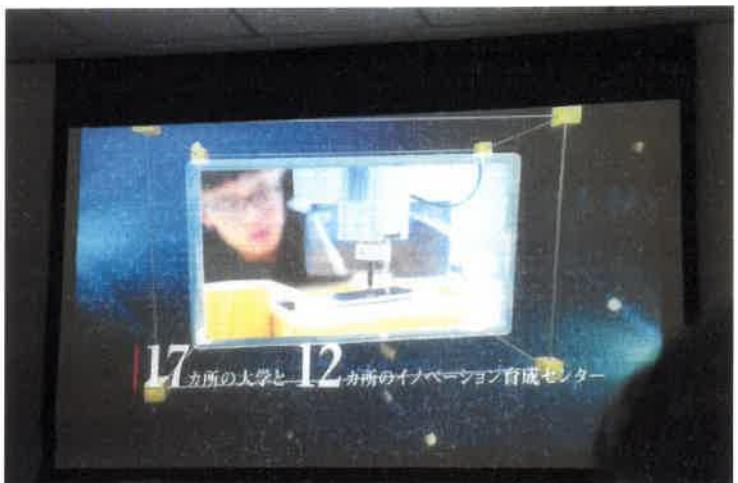
台湾はICT産業に重点を置いている国であるが、2016年9月に蔡英文氏が総統に就任した後、總統府の新しい政策として立ち上げられたのが、IOTの強化であることから、桃園市は台湾産業の国際化、スマート化を目指して、「桃園アジア・シリコンバレー計画」を国から積極的に誘致したのである。

このことについて、国、市、産、学がスムーズに連携できる事務所を、桃園市が専門事務所として建てている。よって、それぞれの関係機関は協力関係にあって機能している。また、ここで進めている計画について、資金面や技術面などにおいて行き詰った時は、中央政府のシステムを利用して繋げている。それに、中央政府の指導委員会があり、必要に応じて会議をしている。ここで働く人々は若く、女性も割合として多くの人がジャンル別に配置されているようであり、生き生きと意見を述べたり、質問への対応をしてくれた。

具体的なインフラ整備の中で、自動車の自動運転の実用化について、虎頭山の開発センターは土地を国から譲ってもらっているので、他の施設は改良の予定だから少しの資金で貰えることや多くは台湾企業から出て、政府からは資金は出ていない。

この計画に関する経費の発生するものは、建設関係、研究開発センターの建物や模擬試験場の模擬道路を作ることである。他に、スマート化を図るために、データーの移動の安全性や通信の安全性が必要となり施設や機器、技術に経費が掛かる。

現在、桃園市だけが台湾の中で人口が増えている。それには、地下価格が安いことや産業



の誘致などで仕事が多く、ビジネスチャンスが大きいこと。新幹線やメトロなどの公共交通の整備によることが大きい。子ども対策として、若い人が家を買いやすくしたり、公共住宅に低所得者が入りやすくしている。人口増加の対策も行われているようである。

以上のことから、国、市、産、学がこの計画において産業や経済に大きく関わり、将来の技術革新などの分野において発展するような計画である。よって、たかまつ創生総合戦略が高松市の産業、経済の発展や人口減少、少子高齢化対策としての戦略であることが重要である。



#### 第4回全国日台国際交流サミットについて

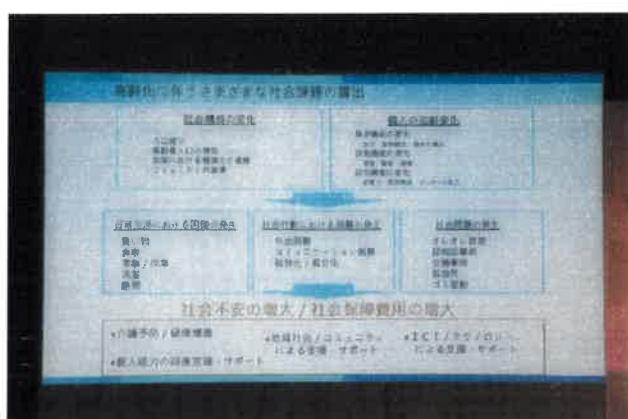
日本と台湾の地方議員による交流サミットで、台湾でのサミットは初めてで、高雄市において開催された。日本からは、320名余が訪台し、「台湾友好の新時代」をテーマに、活発な日台交流とするため、共通の展望に向かって邁進することなどが議論された。

台湾高雄市 康 裕成議長 からは、両国の地方議員は永久不変の歴史を刻むでしょうと熱烈歓迎を受けた。これまで、国などは地震や台風災害などの大災害においては、互いにお見舞いをしていることなどが話し合われた。



特別講演では、台北駐日経済文化代表處 代表 謝 長廷 氏が「日台交流サミットへの期待」として、常に変化する時代と都市の友好をテーマに講演された。中でも、現在日本の観光客は増加している。そして今後、善の循環を東アジア環太平洋諸国に広めることが重要

と講演された。



他に、経済概念の協力模式を動かす—高雄市に老人福祉の推進経験や超高齢社会マーケティング、農村地域の永続的な発展と経営を目指す、青森りんごの生産基盤強化・所得向上に向けた取組みと今後の展望と題した講演があった。これらの講演の中から、台湾においても、高齢化率が段々に進みつつあることに対し、懸念を抱いている。また、主要農作物は水稻であるが、熱帯性のマンゴーやバナナ、台湾ナツメなど多くの種類の果物が栽培されている。中でも、阿里山の高地などで栽培されているお茶は、優秀な生産技術によって台湾茶として人気があることが分かった。

このサミットを通して、如何に日本と台湾の関係が友好的で、各産業での交流が活発となり、互いの地方自治体が発展することに希望がもてるようになった。



## 全国日台国際交流サミット エキスカーション参加について

エキスカーションにおいては、高雄市立図書館と高雄市営・新交通システムについて視察した。

最初に、高雄市立図書館については、大きな木の下に人々が集うという構想で設計がなされ、日本で見られる柱という概念がなく建設されている。エントランスのそれぞれの四角や丸の柱は、中にエレベーターや本の返却口などが施されている。

それぞれのセクションは、人に優しく、環境面などが考えられていて、安らぎのある空間が表現されている。また、小さな子どもたちへの配慮もなされていた。

新交通システム（LRT）は、高雄市の将来を見据えたもので、37駅で市内環状運行がされる予定である。これらのことを見させてもらうと、これから高雄市は益々元気に発展していくと感じた。



## 基隆市長表敬と（株）台湾港務会社基隆支社表敬、国立海洋科技博物館について

昨年5月1日、交流協定を締結した都市同士の関係だけに、最初から和んだ雰囲気での表敬訪問となった。両市は今後においても、学生や民間交流が盛んになり、交流が深く発展していくことへの確信がもて、両市の経済効果も大いに期待できるものである。



次に、台湾港務会社基隆支社表敬を行い、西岸コンテナーセンター・光華塔を視察した。本国統治下時代からの道路や線路、そして、倉庫は今も利用している。湾全体はクルーズ船の寄港やコンテナー埠頭としての規模の大きさ、軍港としての役割など、将来の港のあり方などを聞きすると大きく発展していくことに期待がもてる。



70年代從獅球嶺鳥瞰基隆港



一方、本市はサンポート地区の30年の時を経て、地区の賑わいは大きく変わってきてている。これからは県立新体育館の建設による効果も大きいが、四国の中核拠点があることや瀬戸内海を活かした瀬戸内国際芸術祭や国際ピアノコンクールなどの開催による効果も大きく見えてくる。そして、第6次高松市総合計画の高松Tゾーン構想や6つのまちづくりの目標に向けた事業の重要性が考えられる。

国立海洋科技博物館では、台湾の国土を取り巻く海洋環境や資源などについて説明があり、そのような中で、海を利用した生活、産業や海洋技術の発展などが展示されており、スケールの大きさを感じた。

本市には、香川県立瀬戸内海民族資料館や高松市立歴史資料館などに、古代の時代からの海や山、川などの環境に応じた生活様式や、現在に至るまでの人間の知恵による様々な歴史や文化が紹介されていることを改めて認識し、高松のレガシーを感じた。

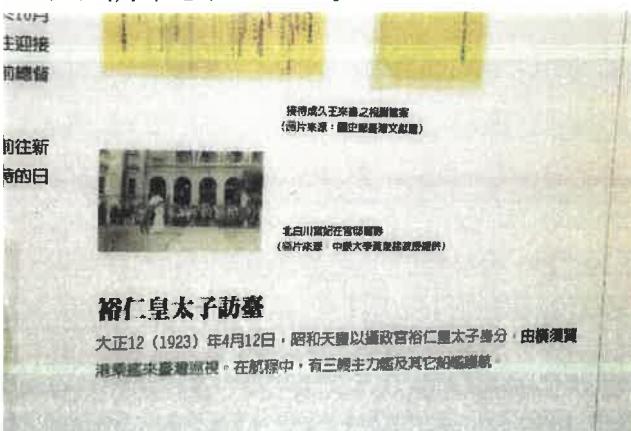


### 總統府見学・台北賓館見学について

總統府は日本統治時代に台湾総統府として、1912 年建築された。高さ 60m の塔を中心に左右対称の建物は、赤レンガに白いアクセントが印象的である。1945 年に米軍の空襲で焼失したが、修復され 1949 年から中華民国の総統府として、現在も政治の中枢として使われている。



台北賓館は日本統治時代の 1901 年に建築されている。もとは台湾総督の官邸であり、また、迎賓館としても使用され、昭和天皇も皇太子時代に宿泊している。建物は、バロック風の二階建てで、庭園は日本風となっている。日華平和条約はこの台北賓館にて、1952 年 4 月 28 日に調印されている。



それにしても、日台の現在を築いた100年余の歴史がここに集約されていると思うと感慨深いものがあり、先人の働きに感謝する次第である。

### 三三会主催歓迎昼食会

この昼食会は、香川県観光協会のお世話で実現し、台湾の経済界を代表している人たちの会が熱烈歓迎してくれたものである。台湾の三三会の皆様が高松市に訪問していただけるような親密な交流となつた。



### 台湾観光協会表敬、中華民国对外貿易発展協会表敬について

観光協会表敬訪問では、日本語版の台湾観光月刊という月刊誌は表紙を見たとき、直ぐに手にとって見たいと思う魅力があり、実際に内容はフリーペーパーにもなっていて、台湾の各地域それぞれの歴史や文化、グルメなどを紹介している。観光振興にも繋げる特集記事として紹介しているところが、印象に残った。



TAITRA/貿易発展協会（日本でいうジェトロ）への表敬訪問に当たっては、台湾の企業・メーカーをグローバルな視点からサポートし、大きな成果を上げているとするPRビデオが紹介された。

その内容は、台湾企業やメーカーの国際競争力の強化、海外企業のビジネスマッチングや世界市場への進出、投資及び技術協力提携などのサポートに重要な役割を果たしている。

高松市にあっても、地場産業のグローバル化を推進するような行政サービスも重要と思われる。



最後に、この度の海外視察研修における知識や情報、交流が本市のまちづくりの振興策や高松市政の発展に結びつくよう取り組んでいきたい。

## 森谷 忠造

### 2018年7月6日（金）

桃園市政府計画専門事務所視察「アジアシリコンバレー計画について」

桃園市制作のPRビデオにより計画全体の概要説明を聞き、続いて担当者より計画の説明を（桃園市の秘書である吉田絵理さんの通訳で）聞く。

シリコンバレーとは、カリフォルニア州のサンフランシスコベイエリアの南部に位置するパル・アルト市、サン・ノゼン市などIT関連企業が集中する地域のことである。

「桃園市アジアシリコンバレー計画」は、2016年9月に蔡英文氏が総統就任後に打ち出された新しい経済政策「5+2計画」の一つで、台湾の県・市の中で唯一人口増加の桃園市の今後の更なる発展が期待される。

### 2018年7月7日（土）

第4回日台交流サミット in 高雄展覧館参加

日本と台湾の地方議員による「日台交流サミット」は2015年に金沢市で初めて開催され、2016年に和歌山市、2017年に熊本市、そして今回2018年は台湾高雄市での開催となった。第4回日台交流サミットは「日台友好の新時代」をテーマとしておこなわれた。

特別講演では「常に変化する時代と都市の友好」をテーマに、京都大学を卒業し、日本の各産業・経済学界とも交流を深めている駐日経済文化代表の謝長延大使より講演をいただく。日本での災害、台湾での災害において、お互いに助け合いが行われている「善の循環」により両国がより一層緊密になり、今後は善の循環を東アジア環太平洋諸国に広めることが重要であるとして講演を締めた。

サミット講演では4名の講師より、それぞれの分野での実践事例の講演があり有意義であった。

### 2018年7月8日（日）

日台交流サミットエクスカーション（周遊視察）

#### 1 高雄市立図書館視察

入口前には高雄の原風景をイメージし、大きな木をイメージしたエントランスが広がる。

- ・貸し出しの手続きを行うカウンターは船をモチーフにデザインされており子どもたちが図書館を好きになり読書好きになって欲しいとの思いが表現されている。
- ・紫外線殺菌庫があり、インフルエンザ流行時期には、殺菌装置を使って返却

された本を殺菌してから本棚に戻している。

- ・一般図書のフロアは、自然光を上手く採光しており、8階から2階までの吹抜け周辺の読書カウンターは、館内で一番の人気スペースとのことである。同図書館は週末だけで1～2万人が訪れる高雄市民の人気スポットとなっている。

## 2 高雄市営環状軽軌（高雄L.R.T）視察

高雄市営の路面電車で、無架空線仕様の車両にて運行されている。この車両は、駅停車中の約20秒で駅の庇に設置されている充電用の架線からの電力供給で充電を完了し、次の駅まで走行が可能である。線路上の架線が不必要なため、一見、L.R.Tなどの路面電車が走っていることに気づきにくい。軌道内には富山と同様に芝生が植えられていて、併せて都市の緑化や景観の美化にも役立っている。

2018年7月9日（月）

### 1 台湾基隆市市役所訪問

基隆市長林氏は台風8号が基隆市に接近する危機が迫っており、対策会議が長引いたため、30分ほど遅れての表敬訪問となった。「昨年より友好都市として高松市と基隆市は親交を深めてきました。両市の学校間交流はすでに始まっています。」「来年開催の瀬戸内国際芸術祭には基隆市から訪問団を作り高松市を訪れたいと考えています。」「今回の視察では基隆市の街を見てください」とのことであった。

### 2 台湾港務会社基隆支社表敬

台湾第二の物流拠点港である広大な基隆港西岸の作業エリアを見学した。巨大なリフトが沢山並びリフトを使って大きなタンクがトラックに積載されていた。東岸は観光用として使われ、世界最大級のクルーズ船が入港することであった。

### 3 灯台の見学

今は一般公開されていない古い灯台を視察した。高さ五階建ての高さで、港内を360°見渡せる灯台である。

### 4 国立海洋科技博物館見学

日本語案内人李さんの案内で館内を見学した。海洋環境ホール内では、一年中台湾東部を流れている黒潮についての説明があった。海洋生物のモデルの展示場では、台湾の生態系のモデルの展示があった。

2018年7月10日（火）

#### 1 台北總統府見学

鉄格子を思わせる門扉内にて若い守衛が対応し、背筋の伸びた日本語の堪能な86歳の男性案内人を紹介していただく。案内人の總統府の常設展示室「府」の説明によると、「府」は「人民の總統府」を核心概念として「建物」「日常」「時代」「声」「想像」「味」「我」という7つの分野から總統府の魅力を伝えているとのことである。

#### 2 台北市台北賓館見学

元日本企業の職員であった日本語の堪能な63歳の男性案内人の説明を受けながら館内見学。台北賓館は台湾の国家招待所（迎賓館）で台湾外交部が管理している。台北賓館は日本統治時代の1899年（明治32年）起工し1901年に完成了。もともとは台湾総督の官邸として建てられた。建物はバロック風の2階建てで、庭園は日本風である。第二次世界大戦の終結後、建物は中華民国（台湾）に引き渡され、以降迎賓館として使われるようになった。日華平和条約はこの台北賓館で1952年4月28日に調印された。台北賓館は戦後長い間非公開とされていたが、2006年6月4日より年に数回の頻度で一般公開が行われるようになった。

#### 3 三三会主催歓迎昼食会

この歓迎昼食会は、香川県観光協会にお世話になっての昼食会である。三三会は日本でいえば経団連ともいえる組織である。三三会からは、顧問余吉政氏を始め日台業務交流室の職員を含め5名の皆様から温かい熱烈な歓迎のもてなしを受けた。

#### 4 台湾観光協会表敬

台湾観光協会は、1956年11月29日に台北市の台湾省議会内に設立された非営利機関であり、日本では東京と大阪に事務所があり、それぞれが東日本、西日本を管轄している。表敬においては、女性の副秘書長から歓迎の挨拶を受けた。

#### 5 中華民国对外貿易発展協会表敬

中華民国对外貿易発展協会（日本でいうジェトロ）・TAITRAを表敬訪問した。対応していただいたTAITRAの林正大組長からは、台湾の企業・メーカーが世界市場に産業や、経済の情報発信などをし、大成果を上げている話があった。この後、協会としてこれまでの大きな役割などの成果を大型スクリーンにて紹介・説明があった。

## 神内 茂樹

2018年7月5日から11日までの6泊7日と、長期間の行政視察を行ってきた。

私は、政治的には大変厳しい状況で報道されており、経済活動に於いても多少なりとも影響が感じられるのではないかと危惧を抱いていたが、全く感じられなかった。

最初に訪れた桃園市に於いて「アジアシリコンバレー計画について」の説明を受けた。桃園市は、香川県を含む日本の5地方自治体と友好関係を結び、特に桃園国際空港はアジアのハブ空港としての地位を目指しており、最近は、関西空港つながりで南海電鉄と関係し、街づくりに取り組んでいるとのことであった。また、経済発展局として東京で開催のフード展に参加し「台湾の硬いとーふ」など、台湾の食文化を日本に発信するために参加したなどの説明を受けた。

桃園市の人口は219万人で、特に平均年齢が38.6歳と台湾の都市の中では一番若く、今でも人口流入が続く人口急増都市である。昔は稲作中心とした地方の農村都市が国際空港を開港したことにより、東京・ソウル・北京・上海・シンガポールなど、アジアの主要都市と約3時間でそれぞれ結ばれるようになった。

一方国際空港の開港に伴い、高速道路の整備が進み新幹線も開通するなど、交通網の発達と共に、今回の台湾中央政府によるシリコンバレー計画の選定においても桃園市が選定され、5プラス2計画としてバイオ・医療・iot(物インターネット)などの開発地区として、台湾のシリコンバレーの中心地としての地位を築いている。

そして中央政府との関係や産学の連携については、中央政府の機関で連携強化をしている。中央政府の指導委員会のもと、それぞれの実行委員会で協議する。中央政府と桃園市の関係はフィフティーフィフティーの関係で、アジアシリコンバレーは中央政府の計画ではあるが桃園市で立案して実行し、自由度をもって実施していると感じた。

次に、日本より導入された新幹線に乗車し、台湾の南都である高雄市に移動した。

台湾を北部から南都へ移動する車窓から感じられたことは、桃園市に於いては都市計画はこれからであり、農業においても基盤整備や水路・道路の整

備はこれからと感じた。

台中地域や台南地域については、基盤整備や水路・農道の整備が進み農家と見受けられる民家も三階建てが多く、裕福な生活をしていると感じられた。台湾の農産物は多種多品目であり、亜熱帯から熱帯までの幅広い気候の中で作物が生産されている。

全国日台国際交流サミットin高雄に参加した。今大会は日本で開催されていた第3回までと異なり、初めて台湾高雄市で開催され、日本の地方議員は約40自治体から320名余りが参加し、台湾側からは22自治体から100名余りの地方議員が参加しお互いの交流を深めた。

今回の開催が実現したのは高雄市市議会 康祐成議長のご尽力によるものであり、大会テーマを「日台友好の新時代到来」とし、開会挨拶の中で「多くの人々が交流を深め、交流を積み重ねることが大切である」ことが強調された。

また、東日本大震災に於ける台湾の支援、そして台湾の地震による被害に対する日本からの援助など、困った時にお互いに助け合う「善の循環」が形成されており、それにより日台関係はより緊密になり、今後も日台の議会の交流と国民の友情の進展が図られていると感じ、今後ともますますの交流を行う大切さを感じた。

エキスカーションに於いては、高雄市の図書館と街づくりについて視察研修した。高雄市は、台湾南端に属し昔は小さな漁村であったが、今では台湾の南部地域を代表する都市に成長している。

特に港が整備されており、多くの大型貨物船が停泊していた。市街地の区画整理も行き届いており、大きなビルディングも立ち並び、LRT（路面電車）が整備されつつあり、最終的には高雄市の環状線となるようだ。

図書館の建物は大きな木をイメージして建設され、一階はオープンスペースとなっており、木陰をイメージした館内は、図書館利用以外の市民も利用が可能で、市民の交流の新たな場としての機能も果たしている。

本市と友好である基隆市に於いては、台風7号の直撃に備えて林市長対策本部を設置し対応に追われているにもかかわらず、心からの歓迎を受けた。その後は、市職員の方々とともに許顯揚ご家族の皆様により、基隆港のコンテナセンターや国立海洋科技博物館の視察研修し、コンテナセンターの規模の大きさに驚くとともに、高松港の整備の必要性を改めて感じた。

最終日は、ジェトロや香川県観光協会の三矢会長より紹介頂いた、台湾観光協会・三三企業交流会・中華民国对外貿易發展協會を表敬し意見交換を行ったが、いかに人と人の繋がりが大切であるかを改めて感じた。特に、今回の海外行政視察において、桃園市国際事務科で働く吉田絵里さん、中国信託で働く[redacted]さんなど、日本の若い女性が活躍していることにも感銘受けた。

今後ますますグローバルな世界になり、人と人の往来が多くなるにつれて人と人の繋がりを大切にしていく世の中を創ることが重要であり、今後の市政活動等に活かしていきたい。



## 藤原正雄

### ・桃園市視察報告

私は桃園市には過去一度、桃園市役所に訪問したことがある。その過去の訪問は桃園市との友好都市を目指すことを念頭に置いたものであったが、2016年7月に香川県と桃園市が交流協定を締結した。本市との協定は出来なかったが香川県と交流協定が締結されたものだから、不思議な感覚になった。くしくも、私たちの台湾視察後、本市香川町浅野地区に伝わる奇祭「ひょうげ祭り」が桃園市でのイベントに招かれ、海外で初めて、奇祭を披露したようである。台湾・桃園と香川県の活発な交流が行われる様に祈念する。

さて、今回の訪問は「桃園市アジア・シリコンバレー計画」について調査研究することに重点を置く視察。

蔡英文氏総統の新しい経済政策であるこの計画の中身の濃さやダイナミックさは、私には素晴らしいタイムリーな計画だと感じた。

桃園市で起業して成功している英語名で Gogoro Inc. というベンチャー企業がある。2011年に陸学森氏によって創立された電動スクーター及び電池交換スタンドの開発・販売を手がける企業である。国内外においてそのデザイン性と先進性の高さに注目が集まっている。

この企業の業績は桃園政府事務所でも紹介があり、渡された経済レポート発行：中華民国 経済部 投資業務処 編集：野村総合研究所（台湾）

「中華民国 台湾投資通信」November 2017 vol.267 の紙面に 2 ページにわたり掲載されていた。内容を以下の様に要約する。

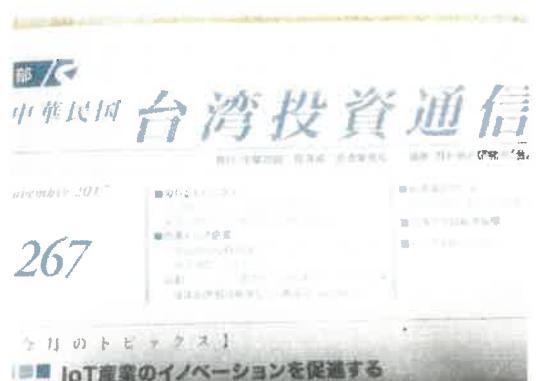
Gogoro 共同創業者たちは、以前より地球温暖化や大気汚染などの環境負荷の低減に強い関心があり、イノベーションにより環境負荷の低減に貢献したいと創業。

電動スクーターは環境にやさしいが、その速度、総走行距離、バッテリーの充電方法や価格の面において課題が多くあった。ゆえに、本格的に電動バイクを手がける企業がなかったと思います。台湾のようにバイク需要が多い国でも普及しなかったのは、充電が面倒くさく、充電を忘れるがちになるなどが普及の妨げになっていると私自身も感じている。

Gogoro は改良を重ね、125CC バイクに劣らないスピードと 100 km 以上の距離の走行を可能にした。

同時にバッテリーは台湾各地（400 か所）に 24 時間電池交換が出来る電池交換ステーション「GoStation」を作り何度も交換できる仕組みを作りました。

結果、台湾での市場シェアは昨年 10 月で 5 % 突破。



今後は、日本に世界に進出していく考え方である。

桃園市には、こうした優れた頭脳や精力的に企業展開する若者の集団が多く存在する事に驚いた。桃園市政府は若者の支持される様々な政策を展開し、若者に支持される生活環境を作り上げていることは本当に圧巻であり、都市間競争に勝てる力を持っていると感じた。

本市においても、若者が不安感を感じる事なく、低成本で生活できる仕組みを考えないとダメだと実感。

しばらくは、この桃園市の「アジア・シリコンバレー計画」を注視しなければと痛感した。そして、高松においても ITを中心とした若者の元気な街の確立を様々な施策にて実現を目指すものだと思う。

#### ・日中交流サミットに参加して

最初に、サミット会場で私たち日本からの来訪を抗議、非難する団体があった。親日の人々ばかりではないことを改めて認識した。戦争はいろいろな形の歴史を現在まで引き継いでいるのかと感じた。

親日台湾ですから、日台の友好を広める良い契機だと感じました。大変な歓迎を受けました。台湾開催は初となります。過去3回日本で開催された経験と実績が、台湾での開催に生かされて良いサミットになったと感じた。

通訳の方の専門用語の通訳が不明確な点が気になった。専門用語の通訳はどうしても難しい点もあるのかと直感した。

今後、日本と台湾の地方議会議員の交流が、日台の更なる交流を深めるものだと感じた。

#### ・日台交流協会サミット エクスカーションに参加して

高雄市立図書館を視察してまず、感銘したのは建設にいたっての意欲を感じたことである。国内では、「南部の人々は本を読む意欲の無い人が多い」と言われており、この事を払拭するために建設されたとガイドの女性から説明を受けた。待ちに待ったと推測される高雄市立図書館であった。

館には、いろいろと斬新な考えを取り入れられ建設されたことが感じられた。私も高雄市民になりたくなった。24時間返却する事の出来る返却機は、ベルトコンベアーより分類されてしまうのは圧巻であった。

エントランスは、太極拳や体操などの市民の日常の憩いの場としても使われ

ており、素晴らしいと感じた。事実、当日大変多くの市民の皆さんのが開館を待っていた。18か国児童書が整備されているのは大変な驚き。日本の親子もこの図書館を多く利用していることも知った。びっくりするほどの大きな絵本にはさらに驚いた。懸垂式建築物という、私自身はあまり聞いたことがない建築物。先に柱を作り、上部から吊り下げたフロアを作っていく工法と聞いた。階段は結構揺れた。ハンモックのようなものかと勝手に考えた。屋上は高雄市の風景を360度見渡すことが出来る。これだけでも、一つの観光スポットになりうると感じた。コンベンションセンター、ライトトレール、高雄市のシリコンバレーなどを眼下に見る事が出来た。

空調機が目立たなく設置されていて、吹き出し口が床下からの吹き出しになっていたのは驚きである。

高松市の図書館にも、ハード面では改裝時点で参考に、ソフト面では直ぐにでも出来る仕組みがあり、今後、当局にアイデア提供を行っていきたいと思った。

60億使って足りなくなつて本は寄付してもらった事は何というアイデアだと感心。本に寄贈者の名前を残し、代々子孫の世代まで名誉が残ることになる。



とても、開放感と自由な感じのある図書館であった。

### 高雄 LRT を視察乗車して

LRT の新しい試みは、上の架線を無くして、駅に到着後充電用架線から約 20 秒で充電を完了し、次の駅まで走行する事が出来ることである。説明では「37 駅が完成すれば、高尾市の山手線だと」紹介を受けた。

公共交通でコンパクトシティを目指す本市では、このような LRT を敷設する事を目指すべきだと考える。LRT を使ってよりスマートな移動が出来る。環境に優しく、安全でバリアフリーの行き届いたまちづくりが出来ると確信した。本市においても、人口減少の歯止めに少なからず貢献するのではないかと期待した。

### ・基隆市を訪問して

私は初めて基隆市に訪問した訳であるが、いろいろ仄聞していたが、本当に港と海と都市の調和がとれていて、市民が生き生きと過ごしている事を見た。

最初に歓迎して頂いた林基隆市長は台風接近が気にかかるようであった。なぜなら今まで基隆市に接近した台風のうちでは、最大級の大きな台風の接近であったから。後の台風接近時の夜中のテレビ中継には林市長の中継映像が映し出された。

市長が最前線に立って市民の安全の確保に力を注いでいることが分かった。



台風接近時のテレビ中継に映る基隆市林市長の真剣な表情

- ・台北市を視察して

台北市總統府では案内の男性がポツリと言わされた一言が印象的であった。「台湾は民主主義で良かった。日本もまた民主主義で良かった。」と言わされた。

三々会主催歓迎会に参加して感じた事は、日本との交流、高松との交流が現在まで民間レベルで脈々と続いていることを改めて認識した。今後も民間・経済交流が一層盛んになる事を願わざにはいられない。私たち市民の交流の将来に大いに貢献する事になると確信した。

台湾観光協会では、私たちの応対をして頂いた女性の副秘書長がいきいきとしており、とても素敵だった。ここに限らず、至る所で女性幹部職員がいきいきと働いているのが印象的であり、新鮮に映ったのは日本、とりわけ高松の働く女性と雰囲気が違うのは何故だろうと考えた。

台湾の社会のように、日本でも男も女もいきいきと働ける環境・風土が更に醸成できるようになればいいと痛感した。

中華民国对外貿易発展協会の訪問では、大型スクリーンに映し出される説明に圧倒された。



意気込みが十分に伝わる大型スクリーンに圧倒された。

## 白石義人

この度、平成30年7月5日から11日までの7日間に渡り、台湾の桃園市、高雄市、基隆市、台北市において視察研修及び日台交流サミットとそのエクスカーションに参加してきた。

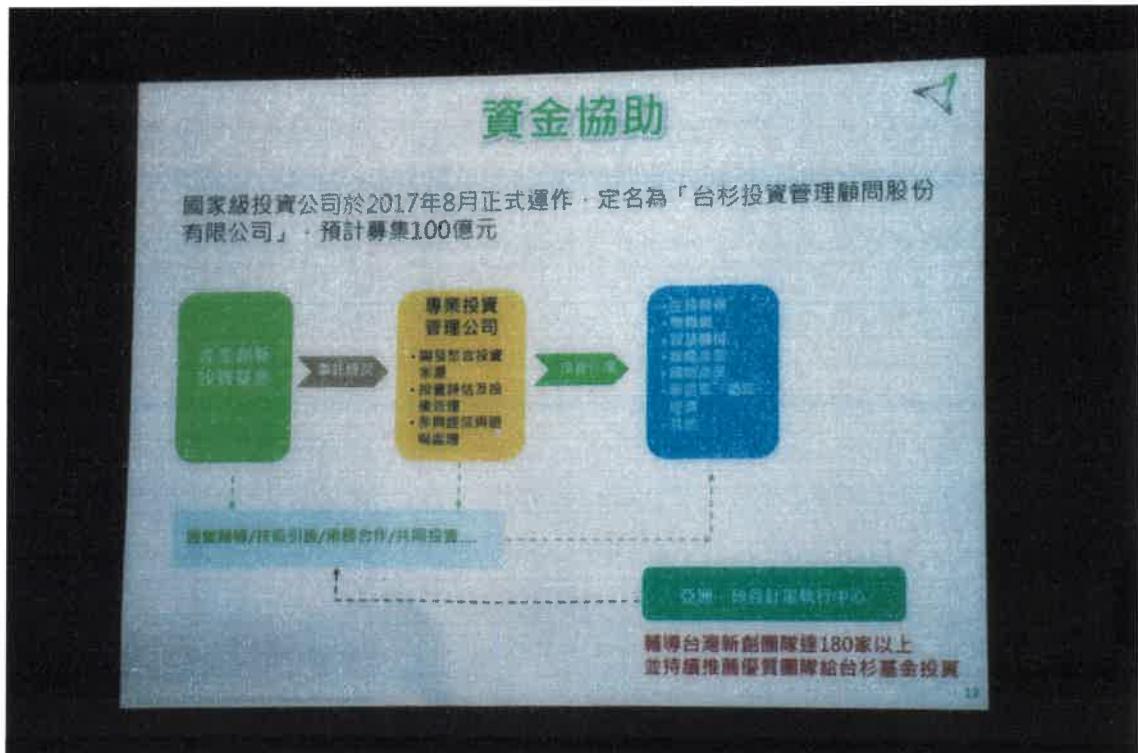
台湾を訪れるのは、基隆市との交流協定締結を目指しての表敬訪問以来であるが、訪れる度、その開発や発展のスピード、また人々のエネルギーを感じると共に、私の育った時代の高度経済成長期も、こういう雰囲気だったのだろうか？とも感じさせてくれる台湾という国は、自分も何かしなければならない！と前向きなパワーをもらえる場所である。

今回多くの場所で、多くの人々に触れ、視察や表敬訪問を通して多くのエネルギーを頂けた気がする。



台北の朝の通勤ラッシュのスクーター

台湾に到着した翌日、早速視察を行った桃園市では、アジア・シリコンバレー計画についてご説明を頂いた。



林氏説明資料内シリコンバレー計画の資金の流れ

この計画は報告書にある通り、台湾の経済政策の一環として、特に適地と認められた桃園市を中心に、周辺の市と連携を取りながら、主に IOT の強化を図るとともに、多くの分野に対してボトムアップを図るものであったが、日本であれば国の予算で進めると考えがちであるのに対し、この計画では民間企業の資金を事業に投資する。企業にとってはビジネスチャンスであり、国にとっては膨大な予算をつぎ込むことなく、規制緩和やその環境整備、また、補助金や助成金はあるが、思いの外少額であるなど、我々の考えている「民間活力の活用・利用」よりも相当突っ込んだ考え方の元に進められている。

こうした手法は日本の地方自治体ではまだまだ消極的である。特に、その事業により企業が利益を得ることに対し、嫌悪感を持つ人々の圧力が高まっていることが要因ではないかとも感じ、このような国や地方自治体が大きな負担を

せどとも環境整備によりお互いが双赢の関係を築ける手法は、本市においても、本来の民間活用として取り入れていくべき手法ではないかと感じた。



林市長表敬の様子（写真1・2）

基隆市、台北市では多数の表敬訪問を行い、今後の本市との関係の深化を図る上で良い関係作りができたのではないかと思う。しかし、残念なことに、10日から11日にかけて台風8号の接近により、表敬訪問の変更や中止を余儀無されたが、経済の面での交流についても面白い話ができたと思っている。



基隆港に停泊中の大型クルーズ船

まず、基隆市では林市長に再三お願いしているクルーズ船の本市への寄港について。基隆市は現在のコンテナヤードの配置を見直し、新たに最大級のクルーズ船が接岸できるよう港の整備を進めていることの説明を頂いた。しかし、本市にはその規模の港がないことと、何より、瀬戸内海を航行できるクルーズ船の規模に限界があることなど、お互いの課題について意見交換ができたことは、双方の思惑のギャップを埋めることができたのではないかと感じた。



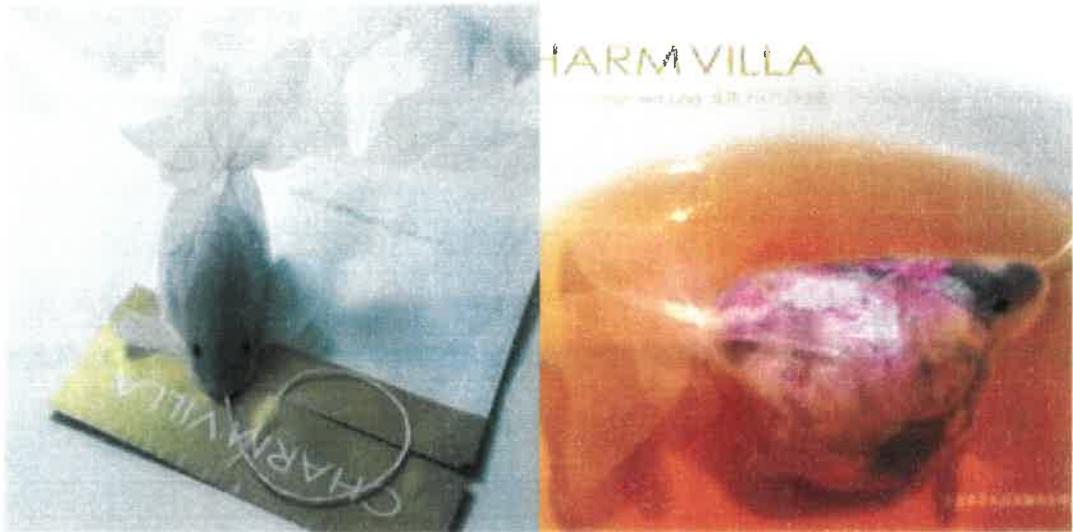
許氏ご子息と翻訳アプリでコミュニケーション！

また、同じく基隆市での歓迎昼食会では、許氏と経済交流について様々なアイディアが飛び交った。特に、麺対決と称してお互いの郷土の麺を題材に、双方で何かイベントや交流ができないか等、食を通じた交流について活発に意見交換ができ、我々としてもうどんを始め青果なども積極的に売り込んでいきたい旨お伝えし、益々の経済交流に向けた協力を要請することができた。



同様に台北市においての三三会との歓迎昼食会において、台湾経済を引っ張っている企業家の方々と親交を深めることができたことも有意義であった。ちなみに、三三会の「三三」とは、毎月第3水曜日に例会を持っていることから来ているそうで、台湾では「月火水木金土日」を「一二三四五六七」と呼ぶ習慣があることから、毎月第三の三で三三会となつたそうだ。

また、色々な企業の商品もよくご存知で、最近人気の商品を伺ったところ、台湾の力を入れている農産物でもあるお茶のティーパックにデザインを施すことでSNSやメディアで注目されているCHARM VILLAの「金魚ティーパック（正式名称は不明）」と言うお茶を教えていただいた。お茶のティーパックを金魚の形にデザインし、お茶を入れるとカップの中で金魚の形に膨らんだティーパックがとても可愛らしく、女性に人気であるとともににお土産にも最適であるとのことで、これはお茶の6次産業化の成功例でもあると紹介いただいた。



「金魚ティーバッグ」（出典「CHARM VILLA」Facebookページより写真1・2）

SNSなどの写真を見てみると、なぜ今までこの発想が無かったのかが不思議なぐらい素晴らしい商品だが、その金魚のデザインにはやはり台湾の文化が活かされていると感じた。身近で当たり前のものに、自分達の文化や習慣をデザインし、コラボレートすることで、今までに無かったものを作り出す。簡単そうだが非常に困難な作業であるが、まさに私たちが取り組まなければならない事そのものであると強く感銘を受けた。

最後に、台湾は現在、日本との正式な国交は結ばれていないが、過去の日本統治時代を経た現在の台湾は、私にとって日本人が忘れてしまったものを思い起こさせてくれる国である。今回の視察の中で、桃園市を除く他の自治体では少子高齢化の進展や人口減少が課題・問題になっているそうである。少子高齢社会先進国の日本の経験は、今後の台湾において良い手本となる、と講演の中で話していたが、私にとっては、地方の少子高齢化・人口減少を脱するヒントが今の台湾にあるのではないか？と思えてならない。今後も違うテーマのもと再訪し、この考えについて追求していきたいと強く感じた視察であった。



若い人も多く訪れる士林（シーリン）の道教のお寺